

名古屋學院論叢

第20号 2020年

論考

「ポスター発表 (Poster Session)」アプローチのための一提案

—— 探究学習を通して「気づき」から「学び」を得るために ——

伊藤 清 (1)

〈ツカリ副詞〉の考察

金井 健太郎 (17)

Living in a Colorful World

水谷 駿太 (23)

COVID-19による避難生活の変化

—— 愛知県内の自治体アンケートを通して ——

城 裕一朗・太田 匠 (26)

レポート・研究報告

高校生によるIT技術を利用した複合型文化祭クラス企画の実施報告と考察

—— 脱出ゲーム × 演劇 × IT ——

大崎 稜司・太田 匠・尾崎 匠・河合 剛大・杉下 温音 (34)

流動性選好理論と不確実性 —— ケインズ、ミンスキーに基づいて

奥菌 青輝 (44)

新島襄と内村鑑三

渡邊 将哉 (52)

台湾環島記 ①～③

佐藤 和道 (68)

名古屋中学校・高等学校

-2020-

「ポスター発表 (Poster Session)」アプローチのための一提案 — 探究学習を通して「気づき」から「学び」を得るために —

A Guide to Preparation for a Poster Session: Research Based Learning

伊藤 清

Abstract

In the year of 2020, Nagoya junior high school students worked on the project of *Poster Session* at the school festival. A poster session or poster presentation is the presentation of research by an individual or group for a class or academic / professional conference. It can be one of the best styles for inquiry based learning, which is a form of active learning that starts by posing questions. The purpose of this paper is to show you the way of making a poster session effectively. You need to learn several rules concerning academic writing. Academic writing is the style that is needed when writing an essay, a paper, a thesis and the like. If you work on your poster session understanding these kinds of rules, your performance can be improved. More or less, you are supposed to make such a presentation in the future in college or the work place. Therefore, here is a guidebook as an approach for a poster session so that you can do it effectively. This guidebook can be of use for a teacher as well as a student.

Keywords

poster session	inquiry based learning	academic writing	guidebook
----------------	------------------------	------------------	-----------

1. はじめに

「探求学習」というキーワードに焦点が当てられるようになって久しい。探求学習とは、他者から与えられた問いに答えるのではなく、学習者自らが問いを立て、課題解決のためのプロセスを考え、課題発見や問題解決に必要な力を育むことを目的とする。従来の知識やスキル重視の教科学習とは異なり、特定の科目にとらわれない総合的・横断的な力の涵養も目的としている。探求学習では、「主体性」と「問題意識」を持つことが最も重要である。なぜならば、その二つのファクターを備えていないと、自ら問いを立てることができず、課題発見や問題解決に繋がらないからである。日常のあらゆる場面で、「なぜ？」と自ら問う姿勢が探求学習の基となる。

2. 本論の目的と意義

名古屋高等学校は 2016 年に文科省から SGH (Super Global High School) のアソシエ

イト校に認定された。それ以来、様々な研究グループが、学外各所で多様な研究活動を行っている。学内では高1を中心に文化祭で研究発表が行われてきた。その流れを受けて、2020年度名古屋中学校文化祭では、生徒会を中心に全学年でポスター発表に取り組んだ。ポスター発表とは、研究発表の一手法であり、グループで取り組みやすい探求学習のスタイルの一つである。本論では、ポスター発表とは何かを明示し、発表までに必要なプロセスを可視化する。高校卒業後の大学・大学院では「研究」という名の下に学びが展開されることになる。中学・高校の段階で「研究の入り口（最初は「まねごと」であっても構わない）」を体験することは、「主体的な活動と深い学び」となることに加え、将来に向けての有意義な体験になるものとする。本論が、ポスター発表に取り組む学習者の、またファシリテーターとしての役割を果たす教師の、一助となれば幸いである。

3. 研究について

3. 1 研究とは何か

「探求」とは、「研究」の入り口と解釈できる。まず最初に、「研究」とは何か、を考えたい。研究とは、小学校で行われる「アサガオの観察」や「アリの観察」などの「自由研究」のように、(もちろんアリの観察も十分な「研究」にはなりえるが)起きていることを単に観察したり、記録を羅列したりすることではない。研究とは、自ら研究テーマを決め、問い(Research Question)を立て、様々な研究手法を用いて、答えの用意されていない課題に取り組むものである。

文部科学省 HP「研究活動の不正行為への対応のガイドラインについて 研究活動の不正行為に関する特別委員会報告書(要旨)」の第1部2-1「研究活動の本質」では、研究を「先人達が行った研究の諸業績を踏まえた上で、観察や実験等による事実、データを素材としつつ、自分自身の省察・発想・アイデア等にもとづく新たな知見を創造し、知の体系を構築していく行為」と定義している。

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu12/houkoku/attach/1334651.htm)

先の定義について岡本(2017,p.17)は、以下のように解釈を加えている。

- 1) 先人たちが行った研究の諸業績をふまえたうえで、社会・学術の諸問題から自分が取り組むべき課題を見出し、それに対して、
- 2) 客観的なデータをもとにしつつ、
- 3) 自分自身の考察やアイデアなどで新たな知見を創造、探求し、
- 4) 他者と共有することで、課題解決に貢献すること。

1) は、先行研究を調べること、2) は、文献(本、新聞、雑誌、インターネットなどを利用)調べ、3) は文字通りの解釈、4) は、論文、研究ノート、ポスター発表、など様々であるが、本論では「ポスター発表」をについて主に論じる。

3. 2 「テーマ」と「問い (Research Question)」の決定

研究で最も大切なことは、研究上の問い (Research Question) を明確に示すことである。それが示されるのが論文の冒頭に位置する「目的」という章である。研究にふさわしい「テーマ」と「問い (Research Question)」を決めることから始める。自分自身の好奇心や関心、疑問の生まれる研究テーマでなければならない。また、「テーマ」と「問い」は疑問形であるべきである。問いを立てることは興味深いことであるが、実に厄介で時間を要する営みでもある。どのように研究を進めたらよいか全く見当のつかないもの、理解が難しいもの、時間がかかり過ぎるもの等は、研究テーマとしては適当ではない。自分の「テーマ」と「問い」が、以下の項目に当てはまらないかチェックしてみよう。もし該当する場合は見直しが必要ということになる。

テーマ：
問い：

< 「テーマ」と「問い」のチェックリスト >

以下の項目に該当する場合は、チェックボックスに☑と記入する

大きすぎないか？

(例) 人間とは何か？どうすれば世界平和が実現できるか？← (大きすぎて收拾がつかなくなる)

すでに解明されていることではないか？

(例) 飛行機はなぜ飛ぶのか？← 「自分が知らないから調べる！」では、研究とは言えない。

現状を調べるだけで終わってしまっていないか？

(例) ○○市の若者はどこに流出しているのか？← 資料を調べたらすぐに答えが出る。

論者の強い主張が含まれていないか？

(例) 法律違反ではないのに、なぜ中高生は茶髪にはいけないのか？← 「茶髪でもよいではないか！」

という結論が問いの中に含まれている！討論 (debate) のテーマにはなるが、論文のテーマにはならない。

すぐに答えが出てしまわないか？ 一般的な常識・情報を調べるだけにならないか？

(例) 熱中症を予防するための方法とは？← エアコンを使用する、こまめに水分を摂取する、など常識の範囲で解答が可能。

マジックワード満載になっていないか？

(例) 自分らしく生き、自ら考え、行動できる子供を育てる教育とは？← マジックワード満載

マジックワードとは、「聞こえはよいが抽象的で具体的に何を意味するかわからない言葉」

4. データ・情報収集について

図書、雑誌、新聞など、さらにはオンラインデータベースやWEBサイトを用いながら探究活動を進めていくことで、知的生産性は上げていきたい。「ジャパンナレッジ」など学校で使用できる手段を上手に活用していきたい。以下に、参考資料を探すためのツールについて触れる。

<参考資料を探すためのツール>

名古屋中学校高校図書館 OPAC (オンライン目録) の検索だけで必ずしも参考となる資料に出会えるというわけではない。以下に、参考資料を探すための方法をいくつか紹介したい。

1) 書誌 (本を探すためのツール)

- a 『日本件名図書目録』: その年度に発行された本を件名 (キーワード) から引くことができる。
- b 『日本書籍総目録』: その年度までに発行され、現在も出版されている本を、書名あるいは著者名から引くことができる。

2) 日本十進分類法を利用して、直接書架にあたる。

3) 一冊の本が用いた参考資料から探す。

- a テーマに該当する本を一冊見つけると、その本が用いた参考資料も同時に自らの参考資料となる場合が多い。巻末や章末などにまとめて参考資料が挙げられている。参考資料が挙げられていない場合は、「研究における参考文献として相応しくない」と判断できる。

4) その他、書店の OPAC を利用する方法、名古屋市図書館ホームページから近くの図書館に希望する参考資料を取り寄せする方法がある。

5) 電子メディアの特徴

- a オンラインデータベース: 百科事典や新聞などの活字メディアを電子化したものは、発信者が明確である。

(例) ジャパンナレッジ ブリタニカ・オンラインなど

- b WEB サイト: さまざまな個人や団体がインターネットを使って情報を不特定多数に公開しているが、発信者が不明確で真偽の確認ができないものが多い。したがって、そのような情報を参考文献に用いることは適切ではない。

(発信者が不明確な例) Wikipedia はてなキーワード ニコニコ大百科 まとめサイト等

- c 信頼できる情報の例 : 政府・地方行政、企業、研究所、大学等の公式HPなど。

4. 1 文献を引用するということ

研究論文を書く上での基本ルールとして、「引用」の仕方と「著作権」について確認したい。「研究」とは個人 / 集団の試行錯誤の結果得られた**知的財産**である。血と汗と涙の結晶であると言っても過言ではない。いかなる理由があろうとも、その**知的財産を盗むこと**（**剽窃・盗用**）は許されない。学習者、研究者、人として、本紙で示す正しいルールに則り、研究に臨まれない。5. 「文献の示し方」に関しては、様々なスタイルが存在するが、本論では、2005年4月に立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科で作成された The Rikkyo Style を基に、Nagoya Gakuin (NG) style を立案 / 提案するものとする。

4. 1. 2 引用とは何か（自分の意見と他人の意見を区別する）

引用とは、研究論文を書く際に、自分の意見と主張を客観的に裏付けるために、他人の研究成果、意見や考えなどを自分の研究論文の中で紹介することを言う。その時に、他人の研究成果、意見や考えなどをあたかも自分のものであるかのように使用することを「**剽窃・盗用 (plagiarism)**」と言うが、それは決して許される行為ではない。アメリカの大学院では剽窃行為によって退学処分を受ける学生が後を絶たないと言われている。もちろん日本も例外ではなく、一度でも剽窃行為をした研究者は、研究者としての地位を失うことになる。このことについて、ある大学院の研究科の HP で以下のように記されている。

剽窃・盗用をすれば、将来にわたっての研究者としての生命を失う場合もあります。アメリカの多くの大学院では、剽窃・盗用があった場合には、退学となり、他の大学の大学院に移籍することも不可能になるという厳しい処分が科されるほどです。

（ <https://www.waseda.jp/fpse/gsp/assets/uploads/2019/04/aed364ad1c775b2c7384c699ae3c878c.pdf> ）早稲田大学大学院政治学研究科 HP より

あらゆる学問と研究は、先人の生み出した知識の蓄積と自身の試行錯誤によってのみ、前進することができる。批判するにせよ賛同するにせよ、他人の研究成果、意見や考えなどに敬意を払いつつ、それらとの関係を見極めた上で、自分の意見と主張を組み立てていくことが大切である。

4. 1. 3 著作権を尊重する — 剽窃 (plagiarism) は、倫理に反する行為

先に述べた方針を法的な観点から整備したものが著作権である。著作権は、文書のみならず音楽、映像、絵画など各人の創意工夫に基づく様々な作品を対象とするが、ここでは学術出版物（書籍、論文、雑誌記事）について説明する。

他人の著作物を引用したり、自分の主張の出典にしたりする場合、必ず「著作権」を遵守しなければならない。具体的には、著作者名、本の題名、出版社名、出版年、参照したページといった書誌事項を明らかにする必要がある。その原則を守らないと、自分の意見と

他人の意見が区別できなくなり、剽窃や盗作といった不正行為に繋がってしまう。

同様に、インターネット上の文書とデータも著作権の対象となることを覚えておきたい。出典を示すことなく、いわゆる「コピペ」で論文を作成することは、紛れもない不正行為である。インターネット上の情報源を利用する場合は、作成者名、文書・資料名、URL、閲覧年月日を明示しなければならない。

4. 2 引用について

4. 2. 1 間接引用（要約）のスタイル

間接引用とは、ある著者の意見や主張などを理解した上で、元の文章を使わずにそれを自分の言葉に置き換えてまとめることを言う。著者の真意がどこにあるのかを丁寧に追いかけて、無理のない形で著者の意見をまとめることが大切である。間接引用した文献注は、引用の最初につけ、「著者名」「出版年」「ページ」の順番で記載する。著者名の表記は、苗字（family name）のみでよい。

◇「間接引用」の例：元の文章を使わず、要約して引用する

〈引用元の文章〉言語には差別的機能が備わっており、英語も例外ではない。人間にはもともと、自分や自分の属しているグループには、プラスのレッテルを貼り、他人や他集団 — 特に敵対視していたり、軽蔑、あるいは支配している場合 — に対しては、マイナスのレッテルを貼り、差別しようという意識があるようだ。津田幸男（1990）。『英語支配の構造』第三書館。

↓

間接引用例 津田（1990, p.52）によれば、言語は差別性を有し、自己の属する集団には正のイメージを、他者の属する集団には負のイメージを植え付ける傾向にある。

4. 2. 2 直接引用（抜粋）のスタイル

直接引用は、あるテキストの中の文章をそのままの表現で引用することを指す。引用箇所は、一字一句そのまま抜き出す。自分の意見と区別するために、改行し2語以上スペースを空け字体を変える。

◇「直接引用」の例：元の文章をそのまま引用する

〈引用元の文章〉私たちが慣れ親しんできた「教養」、そして「文化」の概念は、近代国民国家の形成過程で発見され、正典化されてきた構造物である。吉見俊哉（2011）。『大学とは何か』岩波書店。

↓

直接引用例 我々は大学において「教養」や文化について学ぶが、その成り立ちについては以下のような指摘がなされている。

私たちが慣れ親しんできた「教養」、そして「文化」の概念は、近代国民国家の形成過

程で発見され、正典化されてきた構造物である。 吉見 (2011, p.89)

4. 3 文献の示し方

本論では、「引用文献」を、1) 4. 2. 1で示した引用文「間接引用 (要約)」と、4. 2. 2で示した「直接引用 (抜粋)」の2つとし、「参考文献」を、本文中には引用していないが、自分の意見と考えを展開する上で参考にした文献、と定義するが、一般的には、全てまとめて「参考文献」と表記する場合が多い。しかしながら、少しでも他者の考えが加わっている場合は、可能な限り具体的に表記するように心がけたい。

以下に、文献の表示例を示す。文献表示の仕方は、いくつかのスタイルがあるが、以下に示すスタイルを NG (Nagoya Gakuin) Style とする。なお、文献リストは、文末に示すのが一般的である。

(外国語の本・論文の示し方は、本論では割愛するが、必要に応じて別途指示するものとする)

●日本語の本

- ・編集者がいなくて、全ての章を一人の筆者が書いている場合

吉見俊哉 (2011). 『大学とは何か』岩波書店.

(著者) (発行年) (書名) (出版社名)

- ・複数の章を異なる著者が書いて、編著者がいる場合

森一夫 (2001). 「理科はなぜ離れられてしまったのか」左巻健男, 荻谷剛彦編著.

(著者) (発行年) (引用する章のタイトル) (編著者名)

『理科・数学教育の危機と再生』岩波書店.

(書名) (出版社)

●論文

- ・日本語の場合

中野由美子 (1974) 「階層と言語 — 教育社会学における言語研究の位置づけ —」

(著者) (発行年) (論文のタイトル)

教育社会研究, 29(0). 146-160

(雑誌名) 巻数・号数 (論文の頁)

●新聞

- ・鳥飼玖美子 (2010.10.20). 「オピニオン インタビュー：これからの英語」『朝日新聞』朝刊, 15 頁.

(著者) (掲載年月日) (記事のタイトル) (新聞名) (頁数)

●インターネット上の資料

- ・坂本真樹 (2001.5). 『認知言語学とその周辺』第 6 回人間コミュニケーション学研究会発表資料

(作成者) (公開日) (Web ページのタイトル)

<http://www.hc.uec.ac.jp/act/ken/k06/sakamoto0203.pdf> より 2010 年 12 月 10 日 情報取得

(URL)

(アクセスした日付)

5. 「論文構成」の考え方

ポスター発表とは言うものの、「論文作成」という学術的な活動を経なければならない。論文を作成するときに役に立つのは、1)「序論」2)「本論」3)「結論」という考え方である。

- 1) 序論では、「問い (Research Question) を示す」、「問いにオリジナリティがあることを示す」、「問いに答える道筋を示す」ことが求められる。
- 2) 本論は「結果」と「考察」の二つに分かれ、「結果」では立てた問いに対する答えを出すときに根拠となる具体的なデータを示す。「考察」は、なぜそのような結果になったのか、理由を考え説明する。
- 3) 結論は研究全体のまとめである。結論だけを読んでも論文全体の内容が一目でわかるものが優れた論文と言える。

〈論文の6つの基本構成〉

序論	① 問う	目的 (Introduction) 自分の研究で明らかにしたい問いを示す
	② 調べる	先行研究 (Introduction) 関連する先行研究を紹介し、本研究のオリジナリティを示す
	③ 選ぶ	資料と方法 (Material and Method) 問いを明らかに論証するためのデータの概要と方法を示す
本論	④ 確かめる	結果と分析 (Result) 分析を経た調査の結果を示し、問いに答える
	⑤ 裏付ける	考察 (Discussion) なぜそのような結果になるのか、理由を考える
結論	⑥ まとめる	結論 (Conclusion) ① ~⑥の論証のプロセスを要約し、今後の課題を示す

(石黒 (2014, p.17) を参考に筆者作成)

6 ポスター発表について

6. 1 ポスター発表とは何か

ポスター発表とは、研究の概要をまとめた大判のポスターの前で行うプレゼンテーションの一形式である。通常のプレゼンテーションとの相違点を以下に示す。

	ポスター発表	通常のプレゼンテーション
1. 発表形式	ひとつの会場内で、同時に多数が発表	ひとつの会場で一人が発表
2. 聴き手	会場内を移動し、興味のある発表を選んで聴く	着席して一つの発表を聴く
3. 形態	双方向 (対話中心)	一方向 (発表) + 双方向 (質疑応答)
4. 特色	聴き手 (少人数) の求めに応じた対応が可能なので、随時質問に答えたり、興味関心がある点に絞って詳しく説明したりすることができる。	一度に多数の人に伝える

(立教大学 教育開発・支援センター作成資料「ポスター発表のポイント」を参考に筆者作成)

6. 2 ポスター作成の注意点

- a. 離れた場所からでも関心を引く (瞬時に聴き手が興味を持つために)
 - ・タイトルや見出しの文字を大きくする。

- ・簡潔であり、内容がよくわかるタイトルをつける
 - ・全体の流れがすぐ分かるようにレイアウトする。
 - ・視覚に訴える図や表などを取り入れる。
- b. 内容が伝わる（近づいて読む人の理解を促進するための工夫が重要）
- ・必要な要素（要旨→序論→本論→結論→参考文献）が揃っている。
 - ・要素ごとに見出しをつける。
 - ・読む順番を分かりやすくする（番号をつける、縦列に配置するなど）
 - ・文章は最低限にとどめ、箇条書きなどを取り入れる。
 - ・図や表には読み取るべき要点を付記する。
- c. 文字の書体・サイズや色使いなどに気を配る（読む人の立場で、見た目に配慮する）
- ・タイトル、見出しだけではなく、本文でも見やすい書体、サイズの文字を使用する
 - ・行間を詰め過ぎないようにし、適度に余白をとる。
 - ・色使い方に注意（少なすぎず、多すぎず）

6. 3 ポスターの一例

<p>題目 (Title) : 読者は最初に、タイトルを見た瞬間に興味を持てるか否かを判断する。オリジナリティがあり、知的好奇心をくすぐるインパクトのあるタイトルを考えよう！</p>	
<p>要旨 (Abstract) : 論文全体の要約として簡潔であることが求められるが、読者を論文に引き込むために、非常に重要な役割を果たす。読者は、まずタイトルで興味をもてるかを判断し、次に「要旨」を見て、本文を読むかを判断するものである。</p>	
<p>1. 目的と意義、研究背景など (Introduction) : 目的と意義を明確にし、研究で明らかにしたい問い (Research Question) を示す。</p>	<p>4. 結果と分析 (Result) : 分析を経た調査の結果を示し問いに答える。</p>
<p>2. 先行研究 (Previous Study) : 関連する先行研究を紹介し、自分の研究のオリジナリティを示す。</p>	<p>5. 考察 (Discussion) : なぜそのような結果になるのか、その理由を自分なりに考える。</p>
<p>3. 研究手法、資料や方法 (Material and Method) : 問いを明らかにするためのデータの概要と方法を示す。図や表等を掲載する。</p>	<p>6. 結論 (Conclusion) : 論証のプロセスを要約し、今後の課題を示す。</p>
<p>7. 引用文献・参考文献 (Reference) : ルールに従って書こう！ 「題目」「要旨」「参考文献」だけを見て、その研究の良し悪しを判断されることが多い。それだけに、参考文献は重要となる！発信者が不明確なネット情報では、信用されない！</p>	

(石黒 (2014, p.17)・岡本 (2017, p.139) を参考に、筆者作成)

7. 「要旨 (Abstract)」を英語で書く

7. 1 英語で要旨を書く意義

国内外には様々な分野の「学会」や「研究会」が存在し、各学会において、会員が日頃の研究成果を発表するために、「論文発表」「口頭発表 (プレゼン)」「ポスター発表」等の場が設定されている (COVID-19 をきっかけに、オンラインによる発表が増えている、今後はそのようなスタイルが主流になっていくのかもしれない)。その発表毎に「募集要項」が提示されるが、ほとんどの場合「日本語で執筆する場合には要旨 (Abstract) は英語で、英語で執筆する場合には日本語で・・・」という記述がある。参加者が日本語母語話者に限らないことを前提にしているからである。世界の共通言語が英語である以上、ある部分は英語で書く必要があるからだ。本論か要旨か、どちらかが英語で書かれていれば、どちらかの言語に不安がある人でも研究内容をある程度理解することができる。そのような視点から、将来「学会」の場で研究発表をすることを見据えて、「要旨 (Abstract)」を英語で書く練習をしたい。海外の学会では「全て英語」であることは言うまでもない。

7. 2 アカデミック・ライティングとは

大学に入学すると多くの科目でレポート課題が課せられセミナーやゼミでは発表用の資料を作る必要に迫られる。このような、大学で求められる (つまり研究の分野で) 学術的な文章を書くことをアカデミック・ライティング (Academic Writing) と言う。「英語で書く」と言っても、好き勝手に書けばよいというわけではなく、「ある決まった書き方」あるいは「定型表現」がある。それらの表現に自分の研究内容を当てはめれば、それなりの形ができるものである。

7. 2. 2 実際の英文例

以下の Abstract (仮: How to write *Abstract* in English) を題材に、英文要旨の書き方を示す。

Abstract

This is probably the first time for all of you to work on the project of making a poster to present your study; *Poster Session*. Therefore, it is thought that you are afraid of writing the abstract of your study in English. The purpose of this paper is to inform you of the way of writing effectively. This paper also suggests several rules considering *Academic Writing*. *Academic writing* is the style that is needed when you write an essay, a paper, a thesis and so on. You need to learn these kinds of rules in order to make your abstract better. It is expected that you will be a successful writer if you try to work harder.

Keywords: Poster Session, abstract, Academic Writing

① 「背景」(理由またはきっかけ) を述べる。

This is probably the first time for all of you to work on the project of making a poster to present your study; *Poster Session*. Therefore, it is thought that you are afraid of writing the abstract of your study in English.

*受動態(～と考えられる)で表現することで、「客観性」をもたせることができる。

訳

研究発表をするためのポスターを作る企画(ポスター発表)に取り組むことは、皆さんにとっておそらく初めてのことでしょう。したがって、英語で要旨を書くことに不安を覚えていることと思われます。

背景例

- It has been 75 years since World War II ended, but even now there are so many people who are fighting against the war.
- This year, Our school is going to Nagasaki on a school trip. Nagasaki is the place which is famous for the atomic bomb...
- We, our research group is wondering why America delivered the atomic bomb in Nagasaki.
- We learned about the atomic bomb in the class of social studies, but one big problem has not been solved. It is... That's why we would like to study...

☆「背景」は、次の「目的」に繋ぐための大切な働きをする。「なるほど・・・だから〇〇という目的で研究しようと思ったのか!」と読み手・聴き手が納得できる状況を説明したい。

② 「目的」(何のために研究をするのか、具体的に) を明確にする。

The purpose of this paper is to inform you of the way of writing effectively. This paper also suggests several rules considering *Academic Writing*. *Academic writing* is the style that is needed when you write an essay, a paper, a thesis and so on.

訳

本論の目的は、みなさんに効果的に書く方法をお伝えすることです。本論はまた、「アカデミックライティング」についてのいくつかの規則も提案します。「アカデミックライティング」というのは、エッセイやレポートや学術論文などを書くときに求められるスタイルのことです。

使える表現

- **The purpose of this study is to make** something clear.
本研究の目的は～を明らかにすることである。
- **The main objective of this paper is to reveal** something.

本論の主たる目的は～を解き明かすことである。

• **This paper provides** important information about something.

本論では、～関する重要な情報を提供する。

☆研究は study 論文は paper (report は NG) で通用する。

③ 「結果・結論」(研究の結果どのようになったか、またはなるだろうと考えられるか)

You need to learn these kinds of rules in order to make your abstract better. It is expected that you will be a successful writer if you try to work harder.

訳

みなさんの「要旨」がよりよいものになるようにこれらのルールを学ばなければなりません。一生懸命取り組めば上手に書けるようになることが期待されます。

使える表現

The study concludes that A is much to do with B.

研究結果によると、A は B と大いに関係があるということである。

We conclude that nothing is more precious than peace.

結論としては、平和ほど尊いものはない。

☆「～と結論づける」は、The study concludes that... または We conclude that... でよい。

7. 2. 3 英文要旨を書く上で、想定される疑問

過去に問われた質問内容を参考にして、以下に Q&A スタイルで示す。

Q1. 英語に自信がないので「グーグル翻訳」などで英文を作ってもいいですか？

A1. グーグル翻訳を否定するわけではありませんが、その類のものは、自分の意図することが必ずしも正確に翻訳されるわけではありません。何よりも自分が理解できない表現を他者に提示するほど無意味なことはありません。グーグル翻訳のコピペも「剽窃」の考えに近いので、大学では厳しい指導の対象となります。絶対にやめて下さい！表現例を確認するために翻訳ソフトを使用するのは構いませんが、これまでに英語の授業で学習してきた文法・語法や vocabulary を使って自分の言葉で表現する努力をして下さい。「苦勞して英文を執筆する」という行為も含めて、今回の研究における「学び」となりえます。

Q2. 「これまでに英語の授業で学習してきた文法・語法や vocabulary を使って自分の言葉で表現する」とはどういうことですか？

A2. 先に示した Abstract を題材にし、英文の後ろに「成句」と「文法・語法」をまとめます。

This is probably the first time for all of you to work on the project of making a poster to present your study; *Poster Session*. Therefore, it is thought that you are afraid of writing the abstract of your study in English. The purpose of this paper is to inform you of the way of writing effectively. This paper also suggests several rules called Academic Writing. *Academic writing* is the style that is needed when you write an essay, a paper, a thesis and so on. You need to learn these kinds of rules in order to make your abstract better. It is expected that you will be a successful writer if you try to work harder.

- work on : 取り組む
- to present : ~発表するための (不定詞形容詞用法)
- therefore : したがって
- it is thought that SV : S が~だと考えられる (受動態+形式主語)
- be afraid of : ~を心配している
- inform A (人) of B (もの) : A に B を伝える
- effectively : 効果的に
- suggest : 提案する
- the style that is needed : 必要とされるスタイル (受動態+関係代名詞)
- an essay, • a paper • a thesis : エッセイ・研究論文・学術論文
- need to learn : ~する必要がある (不定詞)
- in order to make your abstract better : 要旨をより良くするために (不定詞+VOC 構造)
- it is expected that SV : S が~だと予想される (受動態+形式主語)

以上、中学校で学習する文法語法が多く含まれています。これらの表現と、6. 2で提示した Academic Writing のスタイルを併用し、より自然な英語を目指して下さい。

Q 3. 要旨 (Abstract) を英語で書く場合に、どれくらいの量を書けばよいの？

A 3. 「100~150 語程度」という考え方でよいと思います。論文の要旨に限らず、たとえば大学入試で出題される Essay Writing (自分の考えを述べる文) も、同じくらいの語数が要求されますので、日頃からその程度の英文が書けるように練習するのもよいでしょう。

8. ポスター発表の実際

8. 1 発表本番で留意すべきこと

以下に、実際にポスター発表をする上で留意すべき事項 (心構え) を提示する。

(1) 発表前にすべきこと

- ポスターの横に立ち、聞き手の集まり具合・様子を確認する。

- ・聞き手が数名（3～4名）集まったところで、発表をはじめる。
- ・1, 2名しかいなくても、事前に大雑把な説明を試みるのもよい。その際に、「あと少しで発表しますよ」と一言添えると、丁寧さが増す。

（2）発表の順序

- ① 本日はありがとうございます。
- ② 今から〇〇について発表します。
- ③ 本研究は・・・から始め、背景→目的→本論→結論の順番で説明（簡潔に要点を述べる）

*時間は5分程度

*図や表は、指を差しながら説明する

*参考文献に言及する必要はない。

④以上で、〇〇の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

⑤何か質問はありますか？ *質問しやすい雰囲気を作る

⑥ご質問ありがとうございます。質問にお答えします・・・

（3）チェックポイント>（以下の項目に留意し、ポスター発表の練習をしよう）

- 声の大きさは適当か
- 話す速さは適当か
- 間の取り方に気を配っているか
- 聞き手全体を見ながら話しているか
- 図や表を示しながら説明しているか
- 笑顔を作りながら、表情豊かに発表できているか

<留意点>

- ・参考文献は、書いてある通りなので説明する必要はない。
- ・ポスターの前で仲間とおしゃべりをしない。確認、修正などの打ち合わせはOK
- ・補足の説明文（レジюме）を用意してもよい。
- ・発表時間は5分程度。無駄なく説明できるように！
- ・参考文献は、書いてある通りなので説明する必要はない。

<質問に答えられない時>

申し訳ありませんが、今回は不勉強でその質問にお答えできません。今後の課題として勉強させていただきます。ありがとうございました。

*いい加減に答えるより、正直に伝えた方が好感が持たれる。

8. 2 聴き手のマナー

発表者の「質問は・・・？」に対して、質問することは聴き手としてのマナーである。誰かの発表に対して「質問力」を磨くことも将来に向けて大切なことである。

<質問内容例>

以下のような順番で対話をする

- ①「興味深い発表をありがとうございました」「興味深く拝聴しました」等、まずは発表者を労う。
- ②「ひとつ質問させて下さい」「〇〇の点についてお聞きします」「××について、もう少し詳しくお話いただけませんか？」など、対話が形成されるように心がける。
- ③「よくわかりました、ありがとうございました」

9. 探求学習ルーブリック

ポスター発表に限らず、「発表」に対する評価は不可欠である。以下のような「ルーブリック評価表」を設定することで、留意事項がより明確になるため取り組みやすくなる。発表を聴く側にとっても、ポイントが整理されているため、よりアクティブに発表を見聞きすることが可能になる。ここでは、2020年度中3が文化祭で使用したルーブリック表を示す。参考にされたい。

学年テーマ：「祈り」（九州をめぐって～平和・天災・キリスト教～）

	項目	チェック項目	Level 4	Level 3	Level 2	Level 1
1	テーマ	テーマに沿った内容になっているか。	テーマに沿った内容となっている。	テーマに対して概ね妥当である。	テーマに沿わない部分が散見される	テーマに沿った内容とは言えない。
2	要旨	指定語数（80～100語）の英語で記述されているか。	指定語数（80～100語）の英語で記述されている。	Level 4 or Level 1 のどちらかで評価。つまり、指定語数の英語で記述されているか否か！		指定語数から外れている。英語で記述されていない。
3	背景目的意義	研究背景および目的と意義が明確に記されているか。	目的と意義の両方が明確であり研究内容も伝わる。	研究内容は伝わるが目的と意義の一方が不明確。	研究内容は伝わるが目的と意義の両方とも不明確。	研究内容、目的、意義全て不明確で主張が見えない。
4	データ	データを効果的に活用しているか。	図表を示し、研究に説得力を持たせている。	図表を示しているが研究を支える根拠としては弱い。	図表を示しているが、研究の根拠にはなっていない。	図や表をいっさい用いていない。
5	結果分析	調査結果を示し、自ら立てた問いに答えているか。	結果を示し、問いに答えている。	結果は示しているが問いの答えとしては不十分。	結果は示しているが問いの答えになっていない。	問いの答えがいっさい示されていない。
6	考察	調査結果の理由を述べているか。	理由を論理的に示している。	理由を示しているが論理性が弱い。	理由を示しているが、非論理的である。	理由にいっさい言及していない。
7	参考文献	NG style に従って明記しているか。	NG style に従って明記している。	一部NG style に従っていない。	文献を明示しているが、NG style に従っていない。	文献をいっさい明示していない。
8	見栄え	色使い、配列、図表など、工夫をしたポスターか。	様々な工夫がされていて、とても惹き付けられる。	いくらか工夫が見られ、読みやすく仕上がっている。	図表は用いているが、工夫をしているとは言えない。	文字ばかりで視覚的な工夫が感じられない。

10. まとめにかえて ―自律性 (autonomy) の涵養を願って―

本論では、「研究とは何か」に始まり、「データ・情報収集」、「文献の示し方」、さらには「ポスター発表の具体例」を明確に示し、最終的には「探求学習ルーブリック」の一例も提示した。ポスター発表に必要なことは全て網羅されていると思われるため、そういう点では、ポスター発表実践まで到達するに耐えうるものと言える。しかしながら、冒頭で述べたように、探求学習では「主体性」と「問題意識」を持つことが何よりも重要である。その二つのファクターを備えていないと、自ら問いを立てることができず、課題発見や問題解決に繋がらないからである。したがって、日常のあらゆる場面で、「なぜ？」と自ら問う姿勢を持ち、探究心を持ち続け「自律した学習者 (an independent learner)」であることを目指されたい。

最後になるが、本論がポスター発表作成に、さらには探求学習に取り組む全ての学習者にとって有益となり、また、先の「自律性 (autonomy)」を涵養するための「動機づけ (motivation)」の一助を担えば幸いである。

参考文献

- ・石黒圭 (2014). 『論文・レポートの基本』 日本実業出版社.
- ・岡本尚也 (2017). 『課題研究メソッド』 啓林館.
- ・立教大学 大学教育開発・支援センター『ポスター発表のポイント』
https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/MoP_FUROKU.pdf
より 2020 年 7 月 21 日情報取得
- ・立教大学 図書館『レポート作成ガイド 5. 引用・著作権』
<http://library.rikkyo.ac.jp/learning/reportguide/citation> より 2020 年 7 月 29 日情報取得
- ・宅間紘一 (2007). 『論文作成術』 日中出版.

引用文献

- ・津田幸男 (1990). 『英語支配の構造』 第三書館.
- ・早稲田大学大学院政治学研究所 HP
<https://www.waseda.jp/fpse/gsp/assets/uploads/2019/04/aed364ad1c775b2c7384c699ae3c878c.pdf>
より 2020 年 7 月 29 日情報取得
- ・吉見俊哉 (2011). 『大学とは何か』 岩波書店.

* 3. 2 『「テーマ」と『問い (Research Question)』の決定』と、9. 「探求学習ルーブリック」に関しては、芝野悦郎氏 (名古屋中学校国語科教諭) の助言を受け、執筆した。

* 4. 3 「文献の示し方」で提示した NG (Nagoya Gakuin) Style は、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科の The Rikkyo Style (2005 年 4 月作成、2010 年 9 月改正) を参考に作成した。

* 英文のネイティブチェックは、ピーター・ロー氏 (名古屋中学校英語科教諭) に依頼した。

(伊藤 清 名古屋中学校 3 年 学年主任 英語科 2020 年度)

〈ツカリ副詞〉の考察

金井 健太郎

【論旨】

語尾形式が「っかり」である副詞を〈ツカリ副詞〉と定義づけ、〈ツカリ副詞〉の特徴を考察する。〈ツカリ副詞〉のうち、考察対象に選定した「うっかり」「がっかり」「しっかり」「すっかり」「ちゃっかり」全てが様態副詞の用法を持ち、また、「(ある特定の語)＋あり」に分解することができる。これらのことから形式上の系統性だけでなく意味上の系統性を見出すことができた。

はじめに

「うっかり」「がっかり」「しっかり」「すっかり」「ちゃっかり」など、「っかり」を語尾とする副詞は数多くないが、語尾形式では系統性が見られる。しかしながら、これらの副詞に関する先行研究は管見の限り確認できない。本論文では、語尾形式が「っかり」である副詞を〈ツカリ副詞〉と定義づけ、〈ツカリ副詞〉の特徴を考察する。

1. 考察の前に

考察の前に、今回考察する〈ツカリ副詞〉の定義、副詞について、考察対象の整理をする。

1.1. 〈ツカリ副詞〉の定義

1.はじめに で述べた通り、語尾形式に着目し、「～っかり」を語尾にもつ副詞を〈ツカリ副詞〉と定義する。

1.2. 副詞とは

庵ら(2000)によると、「副詞とは動詞・形容詞・他の品詞を修飾して、動作・状態の様子や程度、話し手の気持ちを表す働きをする活用を持たない語」と説明している。

また、副詞は、動作や状態の様子を表す「様態副詞」、量や程度を表す「程度副詞」、話し手の気持ちを表す「誘導副詞(陳述副詞)」の3つに分類することができる。

1.3. 考察対象

『広辞苑(第6版)』¹によると、〈ツカリ系副詞〉は「うっかり」「がっかり」「きっかり」「こじっかり」「しっかり」「すっかり」「ちゃっかり」「てっかり」「でっかり」「どっかり」「ぼっかり」「ほっかり」「ぼっかり」の13種確認できた。この中からより使用頻度が高いと考えられる「うっかり」「がっかり」「しっかり」「すっかり」「ちゃっかり」の5語について考察を行う。

2. 考察

考察対象の5語について、辞書上の意味と例文及び語源から考察を行う。

2.1. 意味と例文から

それぞれの語の辞書の記述及び例文から、「様態副詞」「程度副詞」「誘導副詞(陳述副詞)」の分類を行う。

辞書は『広辞苑(第6版)』、『デジタル大辞泉』²、『岩波国語辞典(第8版)』³、及び『現代国語辞典(第5版)』⁴を参照した。それぞれの考察対象の語義は、これらの辞書の中で意味が最も広範的に説明されていた『広辞苑』のものを採用した。なお、それぞれの例文について『広辞苑』第6版のものは【広】に、『デジタル大辞泉』のものは【デ】に、『岩波国語辞典』第8版のものは【岩】に、『現代国語辞典』第5版のものは【現】に記した。複数の例文が掲載されているものは、一番はじめに掲載されたものを採用した。

① 「うっかり」：気が抜けてぼんやりしたさま。

【広】 うっかり忘れた

【デ】 うっかり(と)秘密をしゃべる

【岩】 つまらないことをしてうっかりしゃべってしまった

【現】 うっかり乗り越す。

② 「がっかり」：①落胆するさま。②疲れて気が抜けるさま。

【広】 負けてがっかりする

【デ】 遠足がなくなつてがっかりする

【岩】 がっかりなお知らせ

【現】 給料が上がらずがっかりする

③ 「しっかり」：①堅固で揺るぎないさま。②気力が充実していたり精神作用が健全で

¹ 新村出(2008)『広辞苑(第6版)』岩波書店

² 小学館『デジタル大辞泉』参照日2020/3/18

³ 西尾実ほか(2008)『岩波国語辞典(第8版)』岩波書店

⁴ 小野正弘ほか(2019)『現代国語辞典(第5版)』三省堂

あったさま。③量が多いさま。④十分に、また確実に物事を行うさま。⑤市場に活気があり、相場が下落しそうにないさま。

【広】 (記述なし)

【デ】 ①ロープをしっかりと結ぶ②しっかりと (と) した意見の持ち主

③今のうちにしっかりと (と) 食べておく④しっかりと勉強する⑤ (記述なし)

【岩】 ①ひもをしっかりと結ぶ②気をしっかりともて。③ (記述なし)

④身元がしっかりとしている。⑤ (記述なし)

【現】 (記述なし)

④ 「すっかり」：①残るところなくすべて。②はなはだ。③思い切りよくするさま。

④姿態・服装など、見栄えするさま。⑤素早く体かわすさま。

【広】 ①すっかり忘れていた②すっかりきれいになったね③ものも言わず寝巻きのままにてしっかりと寝て居る男のわきへいかり④まずおせいが高くすっかりとして⑤ひらり早業すっかり素鎗 (すやり)

【デ】 ①金庫の金がすっかりなくなる②からだはもうすっかりいい③すっかりとしてよいお子様です④かの後家といふかすっかりとした上しろもの⑤ (記述なし)

【岩】 ①すっかり忘れていた②すっかり大きくなったね③ (記述なし) ④ (記述なし)

⑤ (記述なし)

【現】 ①すっかり話す② (記述なし) ③ (記述なし) ④ (記述なし) ⑤ (記述なし)

⑤ 「ちゃっかり」：行動に抜け目なく、はた目にずうずうしく映るさま。

【広】 ちゃっかりと同乗する

【デ】 案外ちゃっかりしている

【岩】 ちゃっかりと便乗する

【現】 ちゃっかり人の席に座る

上記より、①から⑤の〈ツカリ副詞〉は以下のように分類することができる。

様態副詞	程度副詞	誘導副詞
①「うっかり」		
②「がっかり」 ① ②		
③「しっかりと」 ① ② ④	③「しっかりと」 ③	
⑤		
④「すっかり」 ② ③ ④	④「すっかり」 ① ②	
⑤		
⑤「ちゃっかり」		

このことから、〈ツカリ副詞〉は副詞の分類について以下のようにまとめることができる。

- ・ 今回考察した5語は、すべて様態副詞の意味をもつ。
- ・ 考察した5語の〈ツカリ副詞〉には誘導副詞として働くものはない。

- ・ 「はなはだ」の意味をもつ「すっかり」②は、例文から考察しても様態副詞・程度副詞の明確な識別ができなかった。

2.2. 語源分析

それぞれの語源を『日本語源広辞典』⁵『暮らしのことば新語源辞典』⁶及び『日本語源大辞典』⁷を参照して分析を行う。なお、それぞれの記述について『日本語源広辞典』のものは【日語広】、『暮らしのことば新語源辞典』のものは【暮新語】、『日本語源大辞典』のものは【日語大】に記した。

①「うっかり」

【日語広】ウカ（ウク）の音便と状態性を表す成分である「り」の複合。

【暮新語】ぼんやりしたさま、不用意なさまを表す動詞「浮く」と同源のウカを基にする。

【日語大】ウカの音便。

②「がっかり」

【日語広】擬音語、ガク、ガクツトする、の副詞。ガックリの変化。

【暮新語】（記述なし） 【日語大】（記述なし）

③「しっかり」

【日語広】シカとの語根シカが、音韻変化でシ+ッ+カ+リとなった語。

【暮新語】（記述なし） 【日語大】（記述なし）

④「すっかり」

【日語広】スカが音韻変化でス+ッ+カ+リとなった語。スカの語源は不明。

【暮新語】（記述なし） 【日語大】（記述なし）

⑤「ちゃっかり」

【日語広】擬音「チャッカーリ」（抜け目なくおさまっている様子）

【暮新語】（記述なし） 【日語大】（記述なし）

なお、『日本語源広辞典』「がっかり」の記述にある「がっくり」の語源を調べたが、どの語源辞典にも記載がなかった。

以上より、〈ッカリ副詞〉の成立には「音便を含む音韻変化の結果として生まれたもの」と「擬音から派生したもの」の2系統あることがわかる。本稿では、まず、5つの考察

⁵ 増井金典(2012)『日本語源広辞典』ミネルヴァ書房

⁶ 山口佳紀(2008)『暮らしのことば新語源辞典』講談社

⁷ 前田富祺(2005)『日本語源大辞典』小学館

対象全てを「音韻変化の結果により生まれたもの」と仮定、音韻変化前の形を推測した後に各語についての分析を行う。

考察対象の5語を、促音化前と推定される形に変形すると以下の通りとなる。

語	推定される促音化前の形	促音化前の形の構造
①うっかり	うかり	うか+あり または うく+あり
②がっかり	がかり	がが+あり または がく+あり
③しっかり	しかり	しか+あり または しく+あり
④すっかり	すかり	すか+あり または すく+あり
⑤ちゃっかり	ちゃかり	ちゃか+あり または ちゃく+あり

推定される促音化前の形を見てみると、形容詞カリ活用連用形として捉えることができる。③「しかり」は知られるとおりの「その通りである」の意を持つラ変動詞であり、その成り立ちは、副詞「しか」または動詞「しく」（及く・如く・若く）+ラ変動詞「あり」である。このことから、推定される促音化前の構造は、「（ある特定の語）+あり」と仮定することができる。この、ある特定の語を考察することにより、規則性が見出せると考えられる。

①は「うか」または「うく」に「あり」が接続したものと推定される。『暮らしのことば新語源辞典』が解説する、動詞「浮く」の同源である語「ウカ」は「浮浮し（うかうか-し）」（うわついている、の意）の用例が確認できる⁸ことから、「うわついている状態」を表す語として使用されることになったことが理解できる。また、思い通りにならず、気持ちが晴れない、つらい、の意をもつ「憂し」が接続したものととも考えられる。気持ちが晴れず、気が進まない状態、すなわち、「ぼんやりした状態」を表す語として使用されるようになった、と考えることもできる。

②について、語源は「額」と考えられる。『日本語源広辞典』が解説する擬音は、人の額＝頭部が急に落ちるさまを描写していることは想像に容易い。

③は前述の通り、副詞「しか」または動詞「しく」（及く・如く・若く）を語源とすることが考えられる。動詞「しく」は「及ぶ・匹敵する」の意を持ち、「（理想的な状態に）及ぶ・匹敵する状態」を表す語として用いられるようになったと考えられる。

④は「すか」「すく」とともに「透」を語源に持つと考えられる。物事を全て見渡すことができる状態を描写したものと考えられる。

⁸ 『日本国語大辞典』「浮浮し」には「仙覚抄」（1269）の例文（たはれとはなびく也。心つよからずして人の云ことになびくなり（略）心浮かれたれば、うかうかしなど云も同じ事なり）掲載されている。また、現代語の「うかうか（としていられない）」も同源と考えられる。

⑤は語源を明らかにすることができなかつた⁹。

以上より、語源分析を通じて、以下のことを明らかにすることができた。

- ・ 〈ツカリ副詞〉は「(ある特定の語) + あり」に分解することができる。
- ・ 上記のある特定の語は(今回の考察対象では)全て語末がカ行である。
- ・ ある特定の語は、⑤を除き、中世には使用例が存在する。

3. まとめ

以上の考察より、〈ツカリ副詞〉について以下述べることができる。

- ・ 今回考察した5語は、すべて様態副詞の意味をもつことから形式上の系統性だけでなく、意味上の系統性を認めることができる。
- ・ 〈ツカリ副詞〉は「(ある特定の語) + あり」に分解することができ、この際のある特定の語は古語として認められるものが多いことから、古語を踏まえた意味定着をしたものと考えられる。
しかしながら、今回の考察を通して以下の疑問が浮上した。
- ・ 〈ツカリ副詞〉の成り立ちと類似する形容詞カ行活用との関連性。古語形容詞はその後活用の種類が1種類に収束していったが、〈ツカリ副詞〉として残存するものと、古語形容詞をルーツにもつ現代語形容詞として残存するもの、あるいは現代語形容詞としては残存しない、廃れてしまった古語形容詞それぞれの特徴の有無は何か。
- ・ 「(ある特定の語) + あり」の、(ある特定の語)が促音化した意義。促音化により現代語として残存していると推定されるが、促音化のもつ効果は何か。

4. 参考文献

- ・ 庵功雄(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- ・ 工藤浩(2009)『改訂版日本語要説』ひつじ書房
- ・ 佐藤武義編(1995)『概説日本語の歴史』朝倉書店

⁹ 「ちゃか」の音および表記を持つ、状態・性質を表す語は管見の限り見つけられなかつた。「ちゃく」は「着」「箸」「嫡」など、状態・性質を表す語はいくつかあるものの、「ちゃっかり」の意味に繋がるものは確認することができなかつた。

Living in a Colorful World

Shunta MIZUTANI

“Color, it is jointing our brain and world.” This text made by Paul Cezanne who is French artist. He was very conscious of color because a lot of people have evaluated his paint. I believe that he insisted color is very important our life, and indeed it is correct.

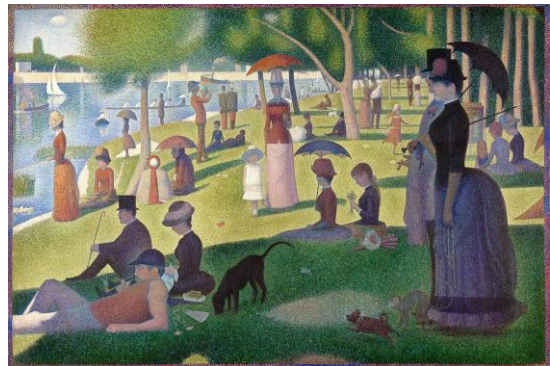
You always and consciously think about color in daily life, and Color is able to change your mind into more wealthy. For example, traffic right which you have to stop while flashing red, and coordinating something is exciting for you. If you have smartphone, change the screen in full color to only black-and-white. You will soon get tired of using smartphone and you should notice that color is exciting element of your life.



[figure1]

So, I want to insist color is wonderful, and I think that color is essential to art. Some people think about the most element of art is not color but others. Naturally, in art, it is important to think about composition. However, good arts must have good colors. When great artists paint picture, they deeply think about what color do they use and color combination. I have most favorite artist, Johannes Varmeer, who comes from Delft in the Netherlands. The number of his paintings are left only about 30 now, and he expressed delicately soft right and fantastic harmony of color in few his paintings. Moreover, he was particular of dye of blue, is not just blue. He used “lapis lazuli”. It is dye of blue, deep blue and very fascinating. However, it is very expensive because it is precious jewelry. When Varmeer draw painting, he was poverty. In spite of he used this dye. I think that this is because he loved lapis lazuli and wanted to convey charm point, lapis lazuli shining in his paintings.[figure1]

Artist who is particular of color is not only Varmeer but also other artist. “A Sunday Afternoon on the island of La Grande Jatte” which is made by Georges Seurat too. [figure2] This is because this picture painted by every color point. I think it imply Seurat rely on color. Therefore, artist must be conscious of color and satisfy with them.



[figure2]

We also generally feel so happy when we watch colorful good pictures. The other day I met one of the free style female artist, Ruru. Then she painted colorful cute animal characters on the wall where is hospital for children. [figure3] She wanted to feel as happy as possible to children by her painting. I moved, and I want to listen her actions. She told me what I want to know. She had holding solo exhibition, making



[figure3]

original T-shirt, and so on. I was very interesting one of her action, painting on the wall of school in Malawi. I wanted to more, and she told me “I have account of Instagram, so you can check it.” Afterward, I checked her Instagram and search about this school. Malawi is located in south east Africa, and the school is relatively common. The school has 1800 students and their age is from 5 to 15. You can easy to imagine that it is gathering up the school which is include half of kindergarten, elementary school and junior high school in japan. She painted the wall which is made by concrete, so it is naturally solid-color before she painted. After she finished to paint wall, I can notice that students in this school seems to get more happiness in her Instagram. This fact show that colorful art can bring us feeling which is about happiness. Moreover, as wall painting of Malawi school, it sticks firmly to daily life for school students, and this art can remain for a long time. Therefore, continuing colorful arts can make continuing happiness. [figure4,5]



[figure4]



[figure5]

Now, we should understand nowadays circumstances which we have to immediately solve in the world, it is refugee problem, North-South problem, discrimination against woman problem and so on. Victims of this problems are not able to get physical health and mental health. Especially, patient of mental ill is very serious. They are hard up and feel hard to live, and the worst case, they try to kill themselves. You cannot believe it, and it occurred from all over the world.

In addition to this problem, terrible virus, Corona Virus Disease in 2019 [COVID-19], recently spread all over the world. Because of scientists don't finish to make a vaccine for COVID-19 yet, A lot of people get scared for COVID-19. Many countries government enforced strictly the order for their nations. When you infect COVID-19, we have to keep on infectious patient in quarantine. Isolated patients seem to get stress, and may get mental ill.

How we live with "ART" in these world circumstances? A lot of governments of countries try to flexibly deal with problems of circumstances. They adopt online system to help people without going home. I think that we should built art museum to use online and colorful art. As Ruru made Malawi student's happiness to paint colorful picture on the wall, make online art museum tour which exhibit colorful art! And we can get happiness when we watch colorful art. This is because colorful art which artist deeply think and make. It is common to Vanmeer, Seurat, Ruru and every artist. Moreover, this project is really realistic. In japan, budget of agency for cultural to support art action is left over 20 billion yen, and French government and invest for art, so we can action to make colorful world right now!

Living with "ART" in 2020. It is living with colorful art and getting happiness!

List of figures

[figure1]<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E7%9C%9F%E7%8F%A0%E3%81%AE%E8%80%B3%E9%A3%BE%E3%82>

[figure2]<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%BB%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%83%E3%83%88%E5%B3%B6%E3%81%AE%E6%97%A5%E6%9B%9C%E6%97%A5%E3%81%AE%E5%8D%88%E5%BE%8C>

[figure4]<https://www.instagram.com/p/BjtlU9ZgnVy/?igshid=191ri5u4at1x3>

[figure5]<https://www.instagram.com/p/BjtlvF6ARi1/?igshid=jgi9cs7poj92>

(水谷駿太 名古屋高等学校 3年生 2020年度)

COVID-19 による避難生活の変化 ～愛知県内の自治体アンケートを通して～

城 裕一朗 太田 匠

はじめに

2020年初頭より、新型コロナウイルス感染症（COVID-19 と呼称）が世界的に蔓延し、日常生活に大きな影響を及ぼしている。我々学生も例外でなく、学校の長期休校や分散登校などにより学校施設の利用が不自由になることも多い。そこで、本校も避難所に指定されていることを踏まえ、COVID-19 が避難生活に影響を与えるのか、さらにはその場合に考えられる問題点と対策について調査し検証を行った。

①-1 避難生活の変容に関する文献収集

避難生活が COVID-19 により変化することは、国や様々な専門家による指針からおよそ明らかである。そもそも日常生活において大きな様式変化が強い以上、当然のことと言える。コロナ禍前より避難所での感染症対策は専門家により研究が進められてきたが、これらは避難所で感染症が発生することを防ぐ目的で主に策定されており、市中感染のおそれがある状況下では、従来より更に厳重な対策が必要となる。具体的には、避難スペースあたりの収容人数の削減やパーテーションの設置、さらには受付からのゾーニング等の対策が地方自治体によって定められる。

避難所における感染症対策として特に必要となることをまとめる。

まず避難者として日常的な感染症対策を徹底すること、そして避難所以外に安全な

避難先を検討する『分散避難』などが挙げられる。日常的な感染症対策とは言うまでもないが、特に避難所において重要となるのが空気の循環と手指衛生である。この重要性については後程触れる。

次に避難所運営者として避難所で行うべき対策をまとめる。避難所には感染症に罹患している可能性がある（あるいは罹患していないと証明できない）人が多く避難してくるが、空気の悪いスペースに密集するようなことがあっては爆発的な感染の拡大を生みかねない。そのため「三つの密（密閉・密集・密接）」を避け、避難所での感染リスクを軽減する必要がある。また感染症の症状がある避難者を隔離し、受付から生活空間を完全に分離する「ゾーニング」を計画的に行っていく必要がある。なお、陰性証明を入所の条件とするなどといった対策は人道的でなく、災害時の混乱の中で要支援者の孤立を生みかねないといった理由から、実行は現実的でないとし割愛する。

①-2 国・地方自治体及び専門家の指針

COVID-19 蔓延による災害対応への影響について、国が最初に方針を打ち出したのは令和二年四月一日である。日本国内で最初に感染が確認されたのは一月中旬であり、その後政府はクルーズ船対応、小中高校の一斉休校、緊急事態宣言発出の法改正などの対応に追われた。残念ながら国の感

染対策は功を奏さず、令和三年九月現在も感染拡大は完全に収まっていない。

内閣府から令和二年四月一日に発出された「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について」によれば「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、感染対策に万全を期」した上で「通常の災害発生時よりも可能な限り多くの避難所の開設を図るとともに、ホテルや旅館の活用等も検討」し、「避難者に対して手洗い、咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底する」と同時に「避難所内については、十分な換気に努めるとともに、避難者が十分なスペースを確保できるよう留意する」ことが国より各地方自治体に要請されている。地方自治体はこれにより COVID-19 を想定した避難所運営の計画作業に追われることとなるが、自治体の中でも一部では、国の要請を待たずに避難所運営に関する問題提起を行い、計画を独自に進めた自治体が存在することが分かってきた。

その後内閣府から発出された通知により、代替避難施設としてホテル・旅館等を活用することや避難所での感染症対策に必要な参考資料等が迫って示された形となる。しかし先に挙げた自治体はこれらの情報を待つことなく独自に計画を始めたことについて着目したい。

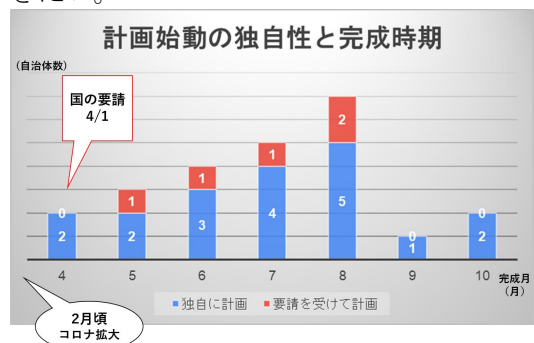
②-1 愛知県内の全自治体アンケート調査の概要

前章で触れたような地方自治体独自の取組について調べるため、筆者ら本校減災チームは愛知県内の全自治体を対象に FAX・Google フォームを利用したアンケート調査を行った。調査期間は令和二年十月から同年十一月までで、有効回答は 34 の自治

体である。以下では、アンケート調査における各質問項目について自治体の回答を集計したものについて述べる。

②-2 (1)計画始動の独自性と完成時期

まず、「自治体が避難所での感染症対策を策定するにあたり内閣府からの要請を待って始動したか否か」と「避難所での感染症対策の計画はいつ頃完成したか」という二つの問いの相関について調べた。なお、計画の「完成」とあるが、避難所での感染症対策ほか防災計画は常に改訂されてゆくものであり、自治体内で暫定的な方針を計画としてまとめた段階について問うているものであることについて認識を共有しておきたい。



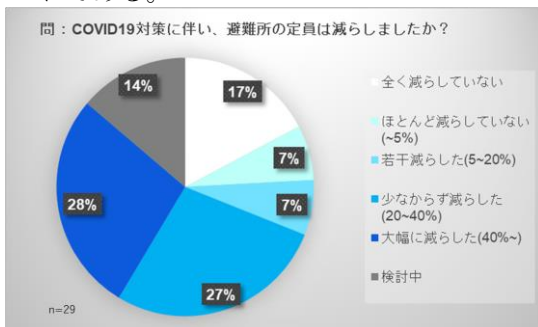
X 軸は令和二年四月からの時系列、Y 軸は同月に計画を完成した自治体数を表したものである。そのうち青く表記された部分は自治体独自に計画を始動した A 群、赤く表記された部分は国・県からの要請を受けて計画を始動した B 群を表す。

根拠①で触れたとおり、内閣府から最初の通知が発出されたのは令和二年四月一日であり、同月中に二つの自治体が避難所での感染症対策に関するマニュアルを完成させたと回答した。これはいずれも自治体独自に計画を始動した A 群である。五月以降

はB群も見られ、特にB群の完成時期は五月から八月に集中している。A群と比較すると最速での完成時期について一か月の遅れがある一方、八月までに概ね完成している。従ってA群は完成時期が特に早くなり得る一方完成まで時間を要する場合があり、B群は完成時期について若干の遅れを生む可能性がある一方ある程度の水準において完成時期の収束が認められる。なお、集計時点で計画が未完成であると答えた自治体は両群ともに2自治体であり、未完成割合に明確な差は認められない。

②-2 (2)避難所の定員削減

次に、「避難所あたりの収容定員を削減するか否か」について訊ねた。これは内閣府の通知群に基づく、「避難者が十分なスペースを確保する」ことができるか否かと関連して、避難者同士の間隔や新規避難スペースなどを調整した上で避難所あたりの収容定員を削減するかを問うたものである。グラフの白色部分が定員を減らさない自治体であり、以下青色が濃くなるほど定員削減の割合が大きい自治体を表す。また定員について検討中の自治体は14パーセントである。



定員を全く減らさないとする自治体は全体のわずか17パーセントにとどまり、削

減の程度に差はあるものの69パーセントもの自治体が定員を削減するとしている。

全体として散らばりを見ると、「全く減らしていない」自治体と「少なからず減らした(20~40%)」「大幅に減らした(40%~)」に大きく振れ、およそ両自治体群の二極化が認められる。筆者はこれについて、両群の間には計画内容に大きな差があるのではないかと考え、追加の電話取材を行った。

②-3 電話での個別追加取材

まず、定員を全く減らしていない自治体に話を聞いた。避難所での感染対策をとるためには通常の避難計画よりもスペースが多く必要となるが、不足分を避難所の本来解放される予定のない敷地を活用し避難所として使用するという対策が聞かれた。具体的には、学校に隣接する学童保育スペース(トワイライトスクール等)や学校校舎等である。特に学校校舎を開放することは防災上大きな進展である。従来では児童生徒のプライバシー保護や授業再開の遅れに対する懸念などから校舎の利用が進んでいなかった。今日のコロナ禍を鑑みた緊急措置という位置づけであるため、今後はこれらの懸念事項を念頭に置いた対策を施す必要がある。

定員を大幅に減らした自治体は、校舎や市の管理する施設等の避難スペース拡張を行っても場所が足りず、止む無く定員削減に踏み切ったことが分かった。国の指針にもあるが、避難スペースとして一時的に民間の宿泊施設と提携した自治体もあった。このように、各自治体で避難スペース拡張に力を入れているものの、実際に確保でき

る敷地には自治体ごとに差があるようである。

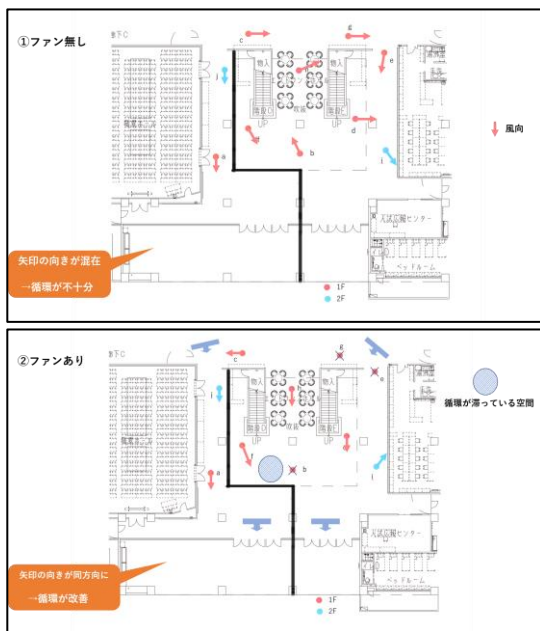
③-1 避難所宿泊訓練における検証の概要

前章までで分かったことを踏まえ、本校における避難所宿泊訓練において実践・検証を行った。検証は本校減災チーム顧問らによる監督のもと、感染対策を重視し、外部から人間が出入りしない限定的な形式で行われた。検証内容は、「エントランスのゾーニング」「エントランス内の循環」「手指衛生」などである。

③-2 避難所内のゾーニングと空気循環

ゾーニングとは感染の疑いがある汚染されたエリアとそうでないエリアを分けることであるが、避難所運営では特に感染の疑いがある避難者をそうでない避難者と隔離し、生活空間を完全に分離することを意味する。これは避難所の受付時から行うことで更なる感染対策の徹底につながる。今回は受付を行うであろう玄関とエントランス内部をどのようにゾーニングすべきか、パーテーションを用いて確認した。

そのうえで、エントランス内の循環について確認した。感染疑いエリアと非発熱者エリアではそれぞれ別に換気を行う必要があるため、先に触れたパーテーションを設置した状態で、体育館に備蓄されている大型ファン4基をエントランス四隅の出入り口付近に配置し稼働させて循環を調べた。エントランス内の循環は各所に配置したメンバーが線香の煙を用いて簡易的に風向を計測した。以下に比較画像を掲載する。



上がファンをつけなかった場合、下が校舎の北から南に向けて風を流した場合である。ファンをつけない場合では風向が混在し循環が不十分であるのに対し、一定方向の風を送り続けることで風向が制御され、循環が改善されたことがうかがえる。無論厳密な検証とは言えないが、ファンの有無により循環に大きな差があることを確認するには充分であったと考える。

一方、課題も散見される。まず電源についてだ。電動ファンを運用するには大量の電源を必要とするが、避難所において貴重なリソースである電源をどれだけ割けるのか不透明である。また騒音が大きいことや風力の調節が難しいことなどから避難スペースの快適性を幾分か妨げる可能性もあるため検討が必要である。

③-2 手指衛生

手指衛生についての検証では、手洗いが十分かチェックする模擬汚染物質の蛍光塗料を用い、感染者役の生徒一人が手に同塗料を塗布した状態で約一時間ワークショップを行った。結果、ワークショップを行った生徒全員の手に塗料が付着し、ワークショップ内で接触したと思われる机や椅子等にも塗料の付着が認められた。非感染者役の生徒のマスクや眼鏡等身の回り品にも付着が確認され、手の汚染では特に爪や指間に多く見られた。約一時間で全員の手に汚染が広がった結果となった以上、数日間にわたる避難生活において手指衛生の重要性ほか、自主的な感染症対策の必要性が改めて明らかになった形となる。しかし衛生物資の不足しがちな災害時、手指衛生に必要な備品をどのように確保するかは各避難所の方ではどうにもならない場合が多く、地方自治体が率先して対策を講じる必要がある。

④ 実際の避難所での運用等

内閣府によれば、令和二年7月豪雨災害や令和二年台風第10号に際して開設された避難所において、新型コロナウイルス感染症対策を講じた避難生活および復興支援活動が行われている。感染症対策に係る避難者定員の縮小や避難所建物の被災状況等からホテルほか民間宿泊施設、国および地方自治体が管理する施設への避難も行われた。また、県外からの応援職員が帰任後に陽性と判定された事例があり、その後の検査・消毒等の対応についても記載がある。

総括

新型コロナウイルス感染症の影響により、避難生活はコロナ禍前に比べ制限の多

いものとなった。特に避難スペース拡張に伴う避難所の定員削減、避難所内のゾーニング等による必要備品の増加等が考えられ、避難所運営計画にも大きな変更が加えられた。実際に感染症対策下で被災生活を送った自治体もあり、課題等を精査して感染症対策をより確かなものにするのが求められる。

参考文献

【行政文書等】

「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について」 内閣府 令和二年四月一日付

「避難所における新型コロナウイルス感染症への更なる対応について」 内閣府 令和二年四月七日付

「新型コロナウイルス感染症対策としての災害時の避難所としてのホテル・旅館等の活用に向けた準備について」 内閣府 令和二年四月二十八日付

「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応の参考資料について」 内閣府 令和二年五月二十一日付

「新型コロナウイルス感染症に係る災害時音避難所としての各省庁及び独立行政法人、民間団体等が所有する研修所、宿泊施設等の活用等について」 内閣府 令和二年五月二十一日付

「『新型コロナウイルス感染症対策としての災害時の避難所としてのホテル・旅館等の活用に向けた準備について』を踏まえた対応について」 内閣府 令和二年五月二十七日付

「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドラインについて」 内閣府 令和二年六月八日付

「避難所における新型コロナウイルス感染症対策等の取組事例集」 内閣府 令和三年五月十二日付

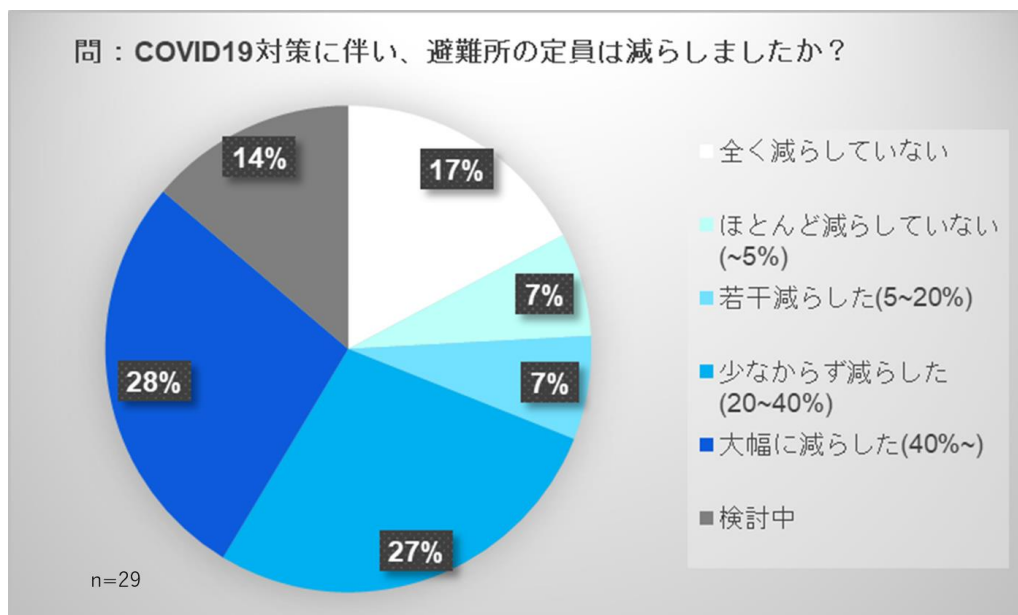
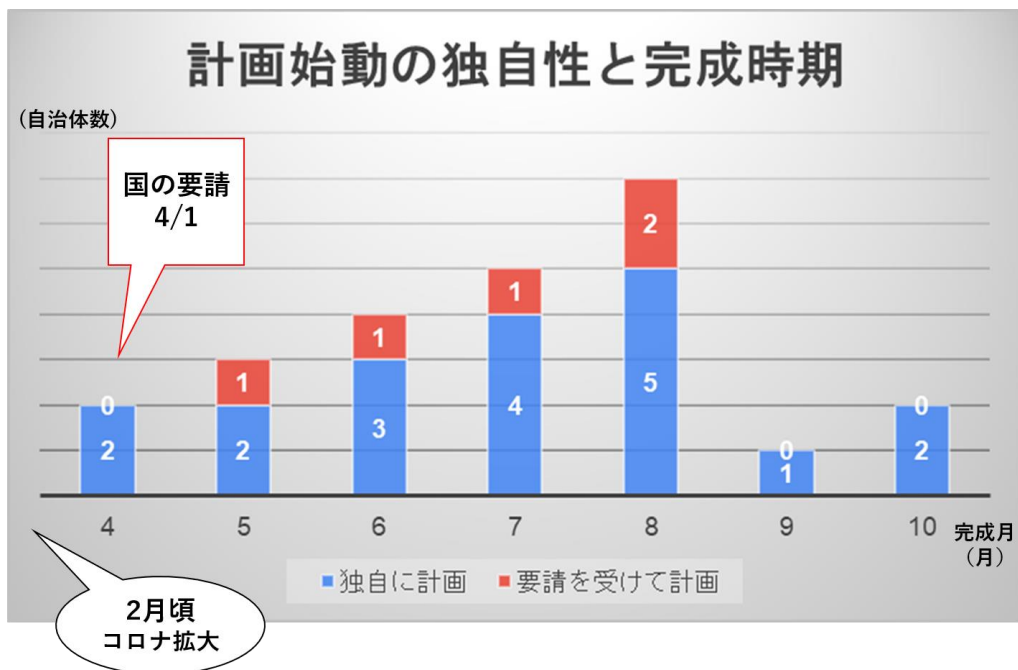
【その他参考文献】

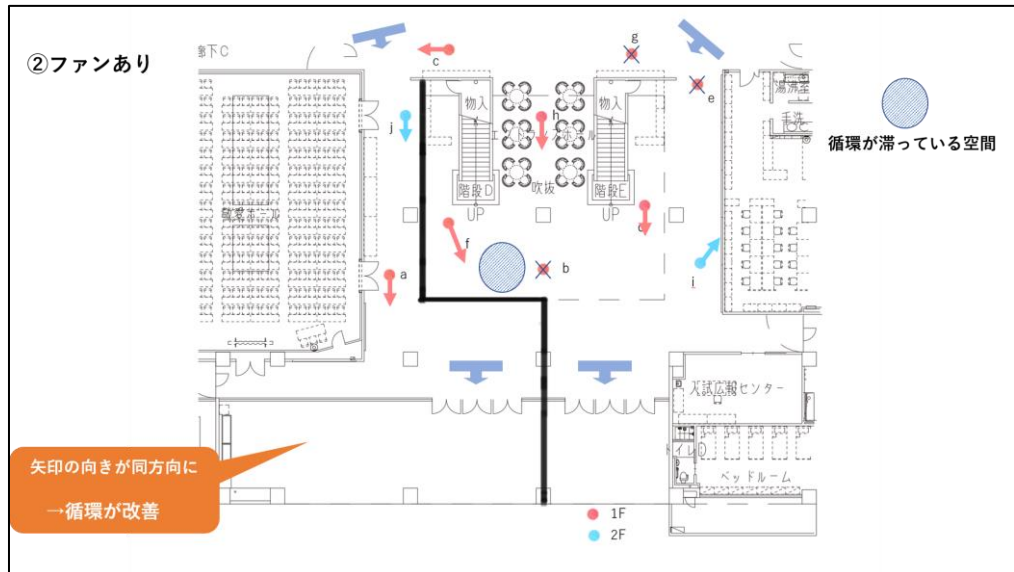
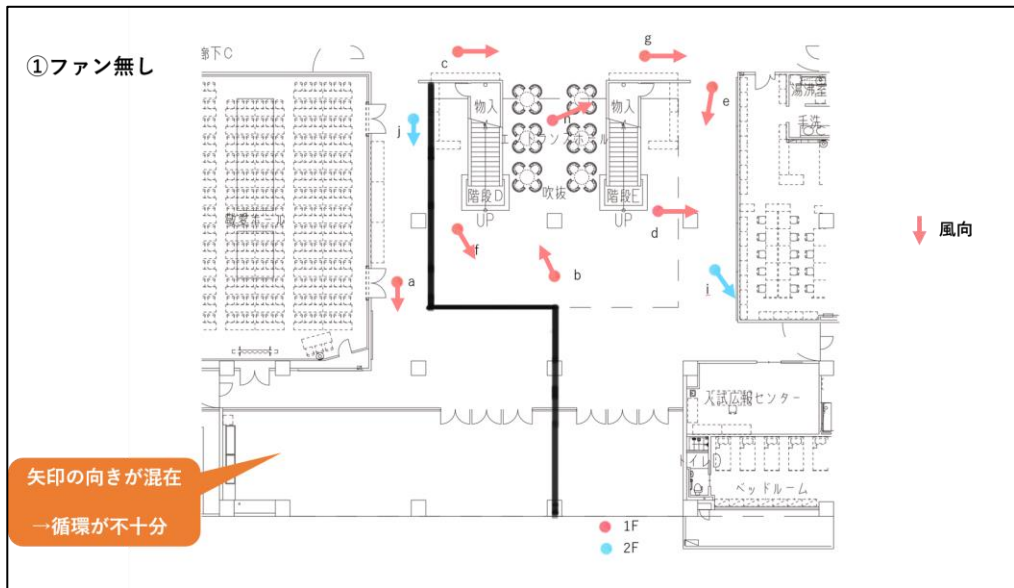
「新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック」JVOAD 令和二年五月二十九日（第二版）

「新型コロナウイルス感染症時代の避難所マニュアル」日本医師会 令和二年六月十七日（第一版）

「避難所での感染症対策に関するアンケート」名古屋中学・高校減災チーム 令和二年十一月

【資料再掲】





×印は強風または風向不安定により観測不能であったことを示す

(城 裕一郎・太田 匠 名古屋高等学校 2 年生 2020 年度)

高校生によるIT技術を利用した複合型文化祭クラス企画の実施報告と考察

—— 脱出ゲーム × 演劇 × IT ——



大崎 稜司・太田 匠・尾崎 匠・河合 剛大・杉下 温香

序章

本文の概要

名古屋高等学校4年A組生徒は、2019年9月20日・21日に開催された第68回愛校祭に向けて、IT技術を利用したリアル脱出ゲーム(以下「脱出ゲーム」と呼称)を企画・製作し、実施した。評判は上々で、学校内表彰を受けるに至ったが、受けた指摘は必ずしも芳しいものではなかった。これらの視点を踏まえて、行った企画から見えてくることをまとめていきたい。なお、審査員講評は参考資料(1)として末尾にまとめた。

企画概要

本題に入る前に、我々が行った企画の概要を簡単に説明する。この企画の骨子となるのは以下の3つの部門である。

- ① 脱出ゲーム部門 (脚本・映像・プログラミング)
- ② 装飾部門 (プロジェクションマッピング・窓枠看板・内装)
- ③ 対外広報部門 (twitter・プロモーションビデオ作成)

以下、①から順に説明していきたい。

① 脱出ゲーム部門

脱出ゲーム部門の作業は、脚本の執筆、演劇・映像編集、プログラミングの3つのフェーズに分かれている。脚本に沿って演劇をして映像に収め、謎解きのルート分岐ごとに映像が流れるようにプログラミングするという流れだ。

脚本は生徒1人が行い、彼は演劇の監督と役者も務めた。その映像をプログラムに組み込み、タブレットに入れて入場者に手渡した。入場者の選択によって5通りに分岐するエンディングとそれまでのルート、謎解きをタブレットで繰り返し広げることによって、人がその場で演じるのとはまた違った雰囲気を醸すことができた。プログラムの詳細は



<https://www.meigaku.ac.jp/wp-content/uploads/2022/01/nagoyagakuinronso202020data.pdf> か、右上のQRコードから閲覧が可能です。

② 装飾部門

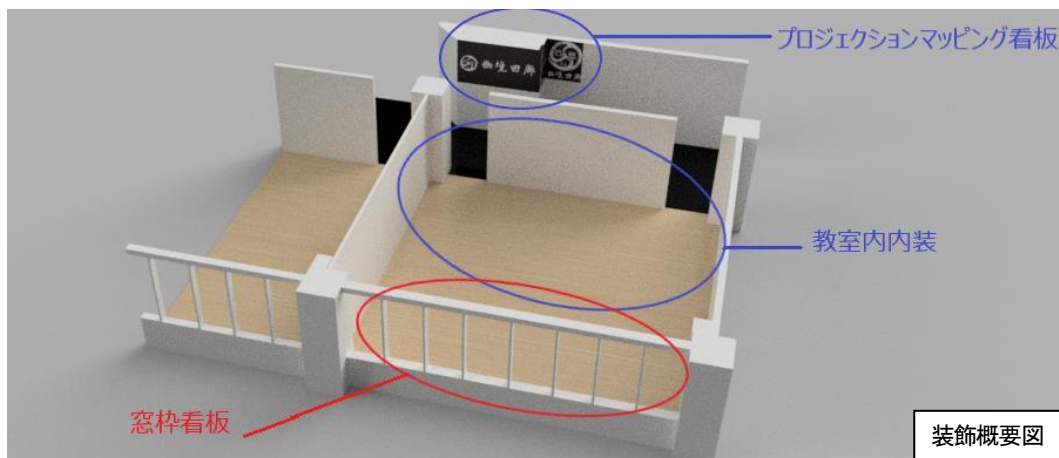
我々が企画を行った教室は立地が非常によく、広告スペースや行列スペースなどをふんだんにとることができた。本来ならば装飾にも時間を掛けたかったのだが、脱出ゲームの方に時間を割きたかった為に手間の削減に努めた。

具体的には、まず廊下の壁へのプロジェクションマッピングを行った。他の企画などを

見ていると、やはり廊下に段ボール等で立体看板を展示している教室が多いようだった。しかし前述のように時間配分の問題と、廊下に行列スペースをなるべく多く取りたかったため、iPadのアプリケーションを利用してプロジェクターで壁に投影する形式をとった。

次に窓枠看板だ。企画を行った教室は校内に入った者から見て真正面に位置し、窓枠看板を設置したときに見やすい立地であった。デザインしたロゴを段ボールに複写し、窓枠にはめ込む簡単なものだったが、写真からも分かる通り入場者の目をうまく引くことができたようである。

内装は脱出ゲームのテーマに沿い、牢屋をイメージしたエリアと日本の屋敷をイメージしたエリアの2つに分けて構成した。牢屋は岩壁に木の格子をイメージし、新聞とスノコで覆った。屋敷は壁の部分に襖を配置し、ルート上隠すべき通路には襖に似せたスライドドアを製作した。この襖の内装は再利用できるように製作しており、環境保護の観点からも有意義な結果を残せたものであった。



③ 対外広報部門

本校では、文化祭を主催する生徒会を中心に様々な団体がTwitterアカウントを作成し広報活動を行う事例がある。最近ではInstagramを活用する団体も増えてきているようだが、我々は前者に倣いTwitterを活用することとした。具体的な流れはTwitterアカウントを作成し、企画の趣旨や製作状況のダイジェストなどを逐次アップしていくという単純でありふれたものだ。特記することとして、プロモーションビデオの作成を行った。脱出ゲームのプロローグに似た役割を担わせ来客意欲を掻き立てることが主な目的だったが、再生数は思うように伸びなかったようである。ところが校内表彰の校長講評によれば「事前のTwitter告知が良かった」とあり、決して意味の薄い活動ではなかったことがうかがえた。残念ながら来客者を対象にしたアンケートを行わなかったため検証は出来なかったが、対外広報についてもある程度の手応えを得た。

第一章

論題①「従来の脱出ゲーム」は高校生の文化祭企画として適切か

注) ここでの「従来の脱出ゲーム」とは、高校生が行う体験型娯楽展示で謎解き、あるいは迷路の要素を主軸とするエンターテインメント企画のうち、IT技術を用いないものを指すこととする。

上記のとおり「従来の脱出ゲーム」とは世に言われる脱出ゲームのうち、IT技術によらないものであると定義した訳だが、高校文化祭の企画として「脱出ゲーム」というものはポピュラーなものだと言ってよいように感じられる。実際、本校でも毎年のように脱出ゲームの催しを目にする。これらは「従来の脱出ゲーム」に含まれるものであったが、今回行った企画はIT技術を全面的に活用することで、このような「従来の脱出ゲーム」との差別化を図った。

第一項 「従来の脱出ゲーム」の性質

「従来の脱出ゲーム」と我々が行った脱出ゲームとの違いを明確にするため、「従来の脱出ゲーム」の性質や特徴をまとめる。ここでは「従来の脱出ゲーム」と「脱出ゲーム」はほぼ同義であるものとして話を進める。

まず、そもそも「脱出ゲーム」とは何かといえば、「体験型娯楽展示で謎解きの要素を主軸とし迷路や密室から脱出することを目的とするエンターテインメント企画」という説明になるが、これを簡略化すると「来場客が脱出しなければならない設定で謎解きや迷路を突破するゲーム」という単純なものになる。「脱出ゲーム」の特徴とっては揚げ足を取るようなものに思われるが、まず「ゲームであること」が挙げられる。「脱出ゲーム」とはあくまでゲームであって、企業や研究機関が行うものでない限り、それ自体に学術性は関係がないということだ。この場合「本来、学術性は必要ない」という表現が適切であるだろう。これは決して否定的な意見ではない。入場者にどれだけ楽しんでもらえるか、という+ α の部分に工夫を凝らす過程である種の専門性や学術性に近い境地に至るものではないだろうか、と我々は考えた。

次に、「エンターテインメントとして広く名が知られている」という特徴がある。知名度が高いことは、集客のしやすさに直結する。また、企業などが行う脱出ゲームは知名度が高くなるだけでなく、シリーズ作品として一種の芸術性を生み出すこともあるようである。高校生が「伝統的な脱出ゲーム」という触れ込みで発信するのも、興味深いかもしれない。

第二項 学校側が企画に求める性質

この論題を取り上げる背景として、本企画の立ち上げの動機や経緯と密接な関わりがある。高校生の文化祭で実現できることは少なくないが、予算や時間、空間などの要因から断念せざるを得ないものも少なくないように思われる。そのような要因の一つに、『学校に求められる要素』を満たしている企画であることが挙げられるのではないかと我々は

考えた。

高校生ならば、企画を立てる際に「企画要項」あるいはそれに準ずるもの、つまり「学校から受ける制限」により縛られることは多くの場合免れることができない。我々も企画を立てる際、「脱出ゲーム」という触れ込みだけでの計画に限界を感じた。なぜかと言えば、本校の企画要項に「学術的であるもの」という趣旨の条件があったためである。「学校側が企画に求める性質」というのは、ある程度どの学校においても共通する部分はあると思われる。簡単に例を挙げるならば、「行事を通してクラス内での協力を図ってほしい」などだ。行事を有効活用することを学校として求めるのは当然と言っていい。

行事を有効活用する、という条件は逆に、学校によって特色を生み出す。実際に本校では「学術性」を求められたように、学校のスクールモットーなどといった対外的に周知された指針によって「学校側が企画に求める性質」は大きく変わってくるものと考えられる。「話題性」や「伝統」といった触れ込みも、学校によっては大きな強みになり得るのではないか。

第三項 まとめ

第一項で触れたもののほかにも、脱出ゲームの性質は多くあると思われる。それらの性質は「学校側が企画に求める性質」に合致するものもあり、学校側と思惑が一致する、という点においては適切であると言える。ただし、学校によって「学校側が企画に求める性質」が異なるため一概に評することはできない。また第一項で触れたように、脱出ゲームは安易に企画するだけでは学術性を持っているとは言えず、創意工夫次第であることなどが事例として挙げられることから、学校側が企画に求める性質を満たせるかどうかが生徒に掛かっている点において懸念が生じ得る。この懸念に関しては教員などが生徒に対して助言、援助を行い、また生徒からそのように求めることによって改善の余地があるものと考えられる。

第二章

論題②アプリケーションを用いた企画は革新的なものになったか

第一項 今回行った企画の特徴

アプリケーションのプログラムについては詳細を参考資料(1)に記載したが、比較対象として明確にするために改めて企画の特徴を確認したい。プログラム言語は Java、動作環境は Android8.0 である。これに演劇の映像、謎解きの解答入力などの脱出ゲームシナリオを実装させたアプリケーションをインストールした端末を来場者が操作してゲームを進めるようにする。

来場者の待ち時間短縮のため、待ち時間にプロローグ映像を見られるようにして飽きられないよう工夫した。映像は楽しんでもらえていたようだが、審査員の視点からは「客がもっとさばけるとよかった」などと言ったコメントも上がっており今後の課題と言える。

中に入ると、会場の各所に設置してある謎を時間内に解くというゲームがスタートする。

問題の難易度調整はちょうどまくいき、制限時間も企画開催中に2回ほど延長しながら調節した。企画中は、エラーやクラッシュは一度も起きなかった。

開発者のミスとしては解答入力画面でのキーボードが一般的なシステムではキーボード外をタップすることによって格納するが、今回1日目から2日目にかけての大幅修正等もあり忘れて実装をしていなかった。そのため、来場者の多くはスタッフの助けが必要となった。

第二項 従来の企画との比較

従来のリアル脱出ゲームをSCRAPが開催しているものとして比較する。

(SCRAP 脱出ゲームのページ: <https://realgame.jp/>)

開発者自身が、実際にSCRAPが開催した脱出ゲーム「INSOMNIA TRAIN からの脱出」に参加したことがあるためそちらと比較することにする。場面ごとにSCRAPの開催したものを記述し、それとの違い、劣る点などを記述していく。

<入場前>

- ・SCRAP「INSOMNIA TRAIN からの脱出」

基本的に2～4人一組で一台の端末が配布され、導入用動画は数組まとまって一つのスクリーンで鑑賞。その後タイマースタートの画像をスキャンして入り口のパスワードを入手し、50分間での脱出を目指す。

- ・今回の企画「幽境回廊」

人数に関しては～5人一組で組んでもらった。導入用動画の鑑賞はそれぞれの端末で行ったため音が聞き取れなかった来場者も多い可能性が高い。開始ボタンでタイマーがスタートする。そもそもアプリのUI (User Interface、使用画面のボタン配置等またはその体裁) が弱いことは問題と言える。

<会場内>

- ・SCRAP「INSOMNIA TRAIN からの脱出」

非常に広く、基本全体で迷路になっていてアクション要素もあった。ところどころにギブアップ出口も設けられ、パスワード式の扉、人間による認証等もあった。

- ・今回の企画「幽境回廊」

会場の広さは圧倒的に小さいため迷路要素は実装できなかった。次回はより大きい会場を使用したいところではあるが、交渉が必要である。その代わり内装、雰囲気といった点は上手く仕上げられたといえる。ただし、回転率、探索の楽しさ、安全性についてはやはり広いに越したことはあるまい。

<謎解き>

- ・SCRAP「INSOMNIA TRAIN からの脱出」

一般的な紙上での謎解きが多いが、床を使った謎、スタッフを相手とするもの、物語上でのヒントより解ける問題もあった。

- ・今回の企画「幽境回廊」

暗い中計算用紙を使ってもらったが、やはり不便そうであった。会場、物語と関連する謎がエンディング5用の謎のみであったので増やしていきたいところである。

<アプリケーション>

- ・SCRAP「INSOMNIA TRAINからの脱出」

やはり専門家が作るだけあるが、UIに手が込んでいた。カメラを使用したスキャンのシステムがあった。

- ・今回の企画「幽境回廊」

UIに関しては開発者の仕事量の関係で手が回らなかった。カメラによるスキャンシステムの実装も考えたが、会場が暗いため断念した。ただ、開発者が会場の設計、謎の作成、動画管理等をすべて任せてもらっていたため、企画にマッチしたものが作れたのではないかと思われる。

<ストーリー>

- ・SCRAP「INSOMNIA TRAINからの脱出」

アーティストSEKAI NO OWARIの2018年ライブツアーの世界観をもとにしており、メンバーが考えたストーリーだとのこと。たしかに実際に使用したライブステージの一部を使用しており、社会性、エンターテインメント性、中毒性、メッセージ性に富んだオリジナルストーリーだった。エンディングは脱出成功、時間切れにより失敗かの2種類があった。

- ・今回の企画「幽境回廊」

脚本作成は別の生徒だが、なかなかオリジナリティに富んでいたと思う。アップグレードするならば、より社会性、メッセージ性を高めたい。エンディングは時間切れ、誤回答過多、裏切り者に気づかず脱出、裏切り者の選択ミス、脱出成功の5種類であった。

<脱出>

- ・SCRAP「INSOMNIA TRAINからの脱出」

ネタバレになってしまうが、初期に通った壁が実は通れるというもので、それを探索、推測させるためのストーリーが最後に配信された。脱出姿をほかの組に見られないよう、複数の部屋の設置、スタッフの設置が必要になってくる。

- ・今回の企画「幽境回廊」

進んだ最後に脱出口、その横に脱出成功エンディング用の部屋へつながる可動式の壁を設置した。やはり規模、予算、経験、製作者のレベルがSCRAPのものとはかけ離れているため一概に比べられるものではないのかもしれない。ただ、工夫を重ねることができれば少しでも近づけることは間違いないだろう。来年もリアル脱出ゲームを作れるとしたら今年を上回るクオリティのものが作りたい。

第三項 まとめ

すべては第二項で触れたことに尽きるが、専門家の作る脱出ゲームと比較することは難しい。専門家の作る脱出ゲームはカメラによるスキャンシステムなど先進技術をふんだん利用でき、予算規模も大きいことからクオリティが高く、我々のものはどうしても見劣り

することは否めない。だが開発上の制限なども鑑みるに改善できる点も多く見つかり、今後の伸びしろがあるとも言える。

以上より、我々の行った脱出ゲームは、脱出ゲーム業界において革新的とは言えないが、学生の行うものとしては一定のクオリティであると言える。

第三章

論題③装飾や広報において IT 技術は大きな役割を果たすか

第一章で触れたように我々の企画では、IT 技術を積極的に取り入れることで従来の脱出ゲームとの差別化を図った。その中で装飾や広報は特に IT 技術を活用したが、IT 技術を用いた装飾や広報について、現代あるいは近未来においてどのように利用されるか結果をもとに考察した。

第一項 現在用いられている IT 技術を用いた装飾や広報

そもそも IT 技術とは Information Technology の略語であることをいま一度確認しておきたい。直訳すれば、「情報技術」であり、世にまかり通る「IT 技術」の意味として適当だろう。1990 年代に情報化社会へと変貌を遂げた人間社会はいま Society5.0 と呼ばれる社会へ跳躍せんと、今まさに助走を始めている。

以下、「現在用いられている IT 技術を用いた装飾や広報」について挙げていくわけだが、今やほとんどの装飾や広報、あるいは広告に IT 技術が使われていると言っていい。チラシ 1 つ作るだけでも、描画ソフトウェアなどを使用して自力で作成する、あるいは業者に委託するなど様々な方法が可能となったが、単に PC を介しているだけではなくて、インターネットの存在によって装飾や広報は大いに可能性が広がっている。

もっとも、AR（拡張現実）や VR（仮想現実）として出力する新しい手法も開発されているが、我々が今回行ったプロジェクションマッピング看板のような、情報を物質的でない形で三次元空間に投影する手法はいまだ多くない。現代でも出力先を紙に依存している傾向は根強いようだ。

そんな中で紙以外の媒体に情報を出力する装飾の例として、大型娯楽施設などで行われるプロジェクションマッピングが挙げられる。見た目のインパクトから絶大な集客力を持ち、たとえ小規模であっても大きな話題を呼ぶこともある。また、光を操作する技術は芸術として新たな地位を作っているようで、そのようなアーティストの活躍も目に新しい。

第二項 IT 技術を用いた装飾や広報があまり用いられない場合に考えられる要因

装飾や広報に IT 技術を用いることを妨げる大きな要因として、技術格差がある。これこそが「IT 技術を用いた装飾や広報があまり用いられない場面に考えられる要因」そのものである。これは装飾や広報に限った話ではないが、いわゆる「情報弱者」と呼ばれる人々が不利益を被ることは重大な問題となる。情報弱者とは、情報機器を使いこなすことに困難が伴う人のことで、これから情報化・電子化がさらに進んでいく過程で大きな不利益を

被る可能性がある。例として高齢者ばかりに目が行きがちだが、実はそうでもない。

我々が行った今回の企画は IT 技術を積極的に取り入れるため、その手の技術に詳しい生徒が必然的に中心メンバーとなった。これは高校生のなかでも IT 技術に得手不得手があり、格差という溝が存在することに他ならない。この問題に関しては小学校でのプログラミング教育の導入などによって改善されることに期待したいが、現在あるいは将来的な情報技術格差に対するサポート体制の強化が急がれる。

第三項 まとめ

装飾や広報の分野において IT 技術を用いないものは現在でも多く、今後 IT 技術の発展に伴いさらにそれらと IT 技術との関わりがさらに密接になることが予想される。逆に、IT 技術による装飾や広報の促進によって、情報技術に疎い者がさらに社会から淘汰されてしまう恐れがあり、サポート体制の強化が急がれる。以上より、現在でも装飾や広報において IT 技術は大きな役割を果たしており将来的にも大きな役割を果たすと思われるが、技術格差に対するサポートを行うことは将来的に IT 技術が用いられるうえで大前提となると考えられる。この考えに拠るならば、急速に電子化・非物質化を推し進めることは格差の増幅を助長するおそれがあり懸念されるべきである。



柱の突き出した角を利用したプロジェクションマッピング看

総評および今後の展望

第一章から第三章まで三つの論題を通して我々の企画から見えてきた企画や技術の問題点などをまとめてきたわけだが、一貫していえることは「IT 技術は専門的である」ということだ。高校生に絞って見れば、IT 技術を駆使して企画を立案し実行するには大きな技術的困難が伴うと言わざるを得ない。

今回我々が行った企画は技術的に見れば最先端に行くものとは決して言えないが、その水準でも技術を扱える生徒は寡少であった。この僅かな生徒たちに仕事が集中するのはこの状況では必然と言って相違ないが、先進技術の発展が進んでも彼らのような IT 技術を持つ人間の待遇が是正されない、あるいは先進技術の発展の結果、待遇がさらに悪化するのであれば IT 技術発展にブレーキをかけることも躊躇うべきではないだろうと考える。発展のために尽力している人々が発展したが為に労苦を強いられるのではその人々も報われないだろう。

ともあれ、脱出ゲームに IT 技術を取り入れる形で行った企画は有意義な結果を残すことができたと言えるだろう。先に挙げた問題点の発見だけでなく、クラスの団結力の向上、技術を持った生徒への信頼など数値に現れない意義を得られたことも非常に大きな収穫である。

高校生であるという理由から来年も全く同じメンバーで第二弾を行う、というわけにもいかないが、今後は今回の経験で得られた反省などから、よりハイレベルで多くの来場客に満足してもらえるような企画に繋がりたいと考えている。技術面だけでなく接客、経費運用などについても、反省や審査員からの指摘があったため今後の課題はまだ山積している状態だ。今回の経験が我々の将来に直結するか否かは現段階では分からないが、機会があれば活かせるだけの経験をしたという自負を持って残りの学校生活を送りたいと思う。

参考資料(1) 教員の評価

<校長講評>

企画所属	4 年 A 組	or	部	or	企画名	幽境回廊
【principal's choice】に選んだ理由						
脱出ゲームをタブレットを用いて行うという発想が良かった。Twitter による事前の告知も 4A からはクラスを圧倒的に上回っていた。						

<審査員講評①>

2019年夏校祭-評価シート※お手数ですが、必ず文化祭が終わるまでに趣意を記入し、1F職員室の水野大の机にある提出BOXに入れてください。				
4 年 A 組		企画名 幽境回廊		
【企画のルーブリック評価】 各項目について、一番近いものにそれぞれ〇をつけてください。				
項目	C	B	A	S
メンバーの協力	メンバーの協力がほとんど見られない。企画がバラバラであるか、または、一人に負ってしまっていた。	メンバーの協力は感じられないわけではないが、それは一部にとどまっていた。	クラスの半数以上の協力のもとに作り上げていると感じられる企画であった。	クラスメイト全員が能動的に協力し、全員で企画を作り上げていると感じられた。
インパクト	盛り上がりには欠けた企画であった。	盛り上がりはあったが、内輪での盛り上がりという感覚が否めなかった。	自分たちが盛り上がるだけでなく、来場者の一部にも、企画についての印象を与えていた。	自分たちが盛り上がる以上に、来場者全員に感動を与え、感心できている企画であった。
社会性・学術性	楽しさや盛り上がりを目指すだけの企画で、学問や社会との接点が見いだせない。遊園地の出し物と変わりない。	社会の問題や構造、もしくは、学問をベースに作り上げている感覚はあるものの、それを十分に表現できていない。	社会の問題や構造、もしくは学問を基軸に据えた企画であり、多少の論理の飛躍はあるものの、探求や考察が十分に認められ、表現されている内容であった。	社会の問題や構造に正面から対峙したか、もしくは学術性を十全に感じる企画であり、単に探求や考察が十分に認められ、表現されている内容であった。
オリジナリティ	どこかで見たような企画であり、オリジナリティに欠けていた。	どこかの何かをもとにした企画で、類似性があるものの、それなりに自分たちで考えようとしている部分はあった。	自分たちの独自の視点から出発している内容や題材ではある。他の企画との差別化ができたオリジナリティがある企画だった。	どこにも見ることがないオリジナリティある内容であり、そのうえで自分たちで知恵を絞っていた様子が随所に見られた。
クオリティ おもてなし	企画の完成度は低く、装飾などに弱い部分や雑な部分、未完成の部分が見所かられた。また、検閲もひどく、おもてなしにはほど遠いものであった。	企画の完成度は満足にはほど遠く、装飾などに雑な部分が見られた。それなりにおもてなしとする雰囲気ではあったが、まだまだ不十分なものであった。	企画の完成度は概ね満足はできるもので、装飾などもそれなりに丁寧に作られている。接客は概ね満足できる丁寧なものであった。	企画の完成度は高校生の一般的なレベルを超えており、装飾なども相当丁寧に作られている。接客も一人一人に合わせた丁寧なものであった。
【企画についての講評やアドバイス】				
自分たちがアプリを作ると、現在のハイテクな技術を使って、何か新しいことをしようという意欲がみられる作品でした。				

<審査員講評②>

教務机

【2019年愛校祭・評価シート】※お手数ですが、必ず文化祭が終わるまでに評価を終え、1F職員室の水野先生の机にある提出BOXに入れてください。

年 4 組 A 企画名 幽境回廊

【企画のルーブリック評価】 各項目について、一番近いものにそれぞれ○をつけてください。

項目	C	B	A	S
メンバーの協力	メンバーの協力がほとんど見られない。企画がバラバラであるか、または、一人に負ってしまっていた。	メンバーの協力は感じられないわけではないが、それは一部にとどまっていた。	クラスの半数以上の協力のもとに作り上げていると感じられる企画であった。	クラスメイト全員が能動的に協力し、全員で企画を作り上げていると感じられた。
インパクト	盛り上がりには欠けた企画であった。	盛り上がりはあったが、内輪での盛り上がりという感覚が否めなかった。	自分たちが盛り上がるだけでなく、来場者の一部にも、企画についての印象を与えていた。	自分たちが盛り上がる以上に、来場者全員に感動を与え、感心できうる企画であった。
社会性・学術性	楽しさや盛り上がりを追求するだけの企画で、学問や社会との接点が見いだせない。遊園地の出し物と変わらない。	社会の問題や構造、もしくは、学問をベースに作り上げている感覚はあるものの、それを十分に表現できていない。	社会の問題や構造、もしくは学問を基礎に考えた企画であり、多少の論理の飛躍はあるものの、探求や考察をしようとしたことは感じられる内容であった。	社会の問題や構造に正面から対峙したが、もしくは学術性を十全に感じる企画であり、単に探求や考察が十分に認められ、表現されている内容であった。
オリジナリティ	どこかで見たような企画であり、オリジナリティに欠けていた。	どこかの何かをもとにした企画で、類似性があるものの、それなりに自分たちで考えようとしている部分はあった。	自分たちの独自な視点から出発している内容や題材ではある。他の企画との差別化ができたオリジナリティがある企画だった。	どこにも見たことがないオリジナリティあふれる内容であり、そのうえで自分たちで知恵を絞っていた様子が随所に見られた。
クオリティ おもてなし	企画の完成度は低く、装飾などに荒い部分や雑な部分、未完成の部分が随所に見られた。また、接遇もひどく、おもてなしにはほど遠いものであった。	企画の完成度は満足にはほど遠く、装飾などに雑な部分が見られた。それなりにはもてなそうとする雰囲気ではあったが、まだまだ不十分のものであった。	企画の完成度は概ね満足はできるもので、装飾などもそれなりに丁寧に作られている。接遇は概ね満足できる丁寧なものであった。	企画の完成度は高校生の一般的なレベルを超えており、装飾なども相当丁寧に作っている。接遇も一人一人に合わせた丁寧なものであった。

【企画についての講評やアドバイス】

よく協力して 様子を伺っていたと思います。もう少し高まれば良いと思います。

<審査員講評③>

教務机

【2019年愛校祭・評価シート】※お手数ですが、必ず文化祭が終わるまでに評価を終え、1F職員室の水野先生の机にある提出BOXに入れてください。

年 4 組 A 企画名 幽境回廊

【企画のルーブリック評価】 各項目について、一番近いものにそれぞれ○をつけてください。

項目	C	B	A	S
メンバーの協力	メンバーの協力がほとんど見られない。企画がバラバラであるか、または、一人に負ってしまっていた。	メンバーの協力は感じられないわけではないが、それは一部にとどまっていた。	クラスの半数以上の協力のもとに作り上げていると感じられる企画であった。	クラスメイト全員が能動的に協力し、全員で企画を作り上げていると感じられた。
インパクト	盛り上がりには欠けた企画であった。	盛り上がりはあったが、内輪での盛り上がりという感覚が否めなかった。	自分たちが盛り上がるだけでなく、来場者の一部にも、企画についての印象を与えていた。	自分たちが盛り上がる以上に、来場者全員に感動を与え、感心できうる企画であった。
社会性・学術性	楽しさや盛り上がりを追求するだけの企画で、学問や社会との接点が見いだせない。遊園地の出し物と変わらない。	社会の問題や構造、もしくは、学問をベースに作り上げている感覚はあるものの、それを十分に表現できていない。	社会の問題や構造、もしくは学問を基礎に考えた企画であり、多少の論理の飛躍はあるものの、探求や考察をしようとしたことは感じられる内容であった。	社会の問題や構造に正面から対峙したが、もしくは学術性を十全に感じる企画であり、単に探求や考察が十分に認められ、表現されている内容であった。
オリジナリティ	どこかで見たような企画であり、オリジナリティに欠けていた。	どこかの何かをもとにした企画で、類似性があるものの、それなりに自分たちで考えようとしている部分はあった。	自分たちの独自な視点から出発している内容や題材ではある。他の企画との差別化ができたオリジナリティがある企画だった。	どこにも見たことがないオリジナリティあふれる内容であり、そのうえで自分たちで知恵を絞っていた様子が随所に見られた。
クオリティ おもてなし	企画の完成度は低く、装飾などに荒い部分や雑な部分、未完成の部分が随所に見られた。また、接遇もひどく、おもてなしにはほど遠いものであった。	企画の完成度は満足にはほど遠く、装飾などに雑な部分が見られた。それなりにはもてなそうとする雰囲気ではあったが、まだまだ不十分のものであった。	企画の完成度は概ね満足はできるもので、装飾などもそれなりに丁寧に作られている。接遇は概ね満足できる丁寧なものであった。	企画の完成度は高校生の一般的なレベルを超えており、装飾なども相当丁寧に作っている。接遇も一人一人に合わせた丁寧なものであった。

【企画についての講評やアドバイス】

謎解き 企画の工夫と今後を期待して。 発表回廊の企画も面白い。 今年度の回廊の工夫が素晴らしいと思います。

(大崎 稜司・太田 匠・尾崎 匠・河合 剛大・杉下 温音 名古屋高等学校 1年生 2019 年度)

流動性選好理論と不確実性——ケインズ、ミンスキーに基づいて

奥園 青輝

abstract

The greatest economist, whose name was John Maynard Keynes, advocated the liquidity preference theory in his "The General Theory of Employment, Interest and Money". This writing caused "The Keynesian revolution", however, Majority economists ignored the liquidity preference theory. In this report, I'll survey it. Also, about Minsky's theory. He highly appreciates the theory.

はじめに

イギリスの偉大な経済学者であるジョン・メイナード・ケインズを始祖とするケインズ理論は、主に有効需要理論と流動性選好理論という2つの理論的支柱からなる。有効需要理論は主に経済の実物的側面を、流動性選好理論は主に経済の貨幣的側面を論じたものである。前者の有効需要理論についてはケインズの後継者により様々な研究が行われ、我が国の高校の教科書にも登場するほど有名なものとなった。しかし、後者の流動性選好理論については、論者によっても賛否がわかれ、特に戦後主流派の地位を占めたアメリカケインジアンからは、冷徹な評価を下されることが多かった。また、一般にもあまりその内容は知られていない。

本稿では、流動性選好理論の概要をサーベイし、アメリカケインジアンの代表格であるヒックスのIS-LMモデルにおける流動性選好理論と対比する。また、ハイマン・P・ミンスキーによる流動性選好理論の再定義を通じて、流動性選好理論が決して過去の遺物ではなく、現代の複雑かつ高度化され

た金融システムへの分析の礎となっていることを確認する。

ケインズの流動性選好理論

流動性選好理論は、ケインズ理論の中核をなす理論であるにも関わらず、アメリカ・ケインジアンはじめとする戦後ケインジアンには受け入れられなかった。例えば、ポール・サミュエルソンは「利子率はケインズが考えたほど重要ではない。それゆえ、流動性選好は非常に決定的な重要性をもつものではありえない」と述べ、流動性選好理論に懐疑的な立場をとった。

経済学の世界において、何が投資と貯蓄を均衡させるパラメータであるか、ということは古くから論じられてきた。標準的な古典派においては、利子率が投資と貯蓄を一致させるように動くと言われる。すなわち、利子率が低下すれば資金を寝かせておいても収益が上がらないため、実物資本への投資が活発になる。一方で利子率の低下は貯蓄には不利に作用するため、貯蓄は減少する。この関係性をグラフに表すと、投資は利子率の減少関数として、貯蓄は利子率の増加関数として描ける。ゆえに、投資曲線と貯蓄曲線が交差するところで利子

率、そして投資規模(貯蓄規模)が決定される。そのため、古典派においては利子は貯蓄への報酬と位置づけられる。

ケインズは、投資と貯蓄の均衡から利子率を完全に切り離れた。ケインズにおいては利子率はもはや投資や貯蓄の大きさに決定的に影響を及ぼすものではない。その上で、投資と貯蓄を均衡させるのは国民所得であるとした。それを図式化したのがよく知られた「45度線分析」である。これはサミュエルソンが初めて考案したとされているが、定かではない。このモデルにおいては、投資が一単位増加すると貯蓄が一単位増加するまで所得が増加し、新たな均衡点に到達する。このときの所得増加分は投資増加分に限界貯蓄性向の逆数を乗じることで求められ、この限界貯蓄性向の逆数は「乗数」と呼ばれる。利子率は常に一定と仮定され、投資と貯蓄が均衡するように決定されるという想定はなされていない。45度線分析はテキストブックにおいて限界投資による乗数効果を説明するために用いられることが多いが、投資と貯蓄の均衡の過程において利子率を捨象することによって、古典派の利子率論を否定したのもであった。

ケインズにおいては貯蓄は利子率の増加関数ではない。なぜなら、貯蓄は所得のうち消費に回されなかった残りであり、消費は所得のみに依存していると考えたからである。その上で、所得は分配率を通じて投資により決定される。つまり、利子率の上下は、消費行動(すなわち貯蓄行動)に影響を及ぼすものではない。

対して、ケインズの流動性選好理論の特徴は、貨幣利子を流動性としての貨幣を手放すことに対する報酬とみるところにあ

る。例えば、貨幣を一定額貸し付けた際には貸出期間に応じて貸し手に利子が支払われる。このとき、借り手は流動性を一定期間貸し手から「購入」したのである。流動性とはケインズによれば「短い予告で、損失なしにいつでも確実に換金可能」な性質のことを意味する。流動性の高い資産は、経済の不確実性を回避することができるので、根本的な不確実性が支配する経済において絶え間なく需要が発生する。なお、この根本的な不確実性というのはケインズ理論において極めて重要な前提であるが、戦後の主流派によって軽視され続けてきたことでもある。

流動性選好の概念を体系的に表すために、ケインズは自己利子率という概念を提示している。これは、貨幣、債券、工場、小麦、土地等々あらゆる資産に各々の利子率が存在するという考えであり、当該資産を一定期間保有して得られる利益として表される。

それぞれ資産に対する自己利子率は、一期その資産を保有して得られる期待収益を当該資産で測ったものを q 、その資産を一期持ち越すのにかかるコストを当該資産の価値で測ったもの、すなわち持越費用を c 、資産処分能力によって測られる「潜在的な便益あるいは安全性……いってみれば、期末において産出物の形でこれを示すものはないけれども、それにもかかわらず、人々はそのためにどれだけを支払う用意もっているもの」、すなわち流動性プレミアムを l 、当該資産の期待価格上昇率を a とすると、当該資産における自己利子率 r は、

$$r=q-c+l+a$$

と表される。つまり、利子率が高い資産は、高い収益が見込め(q)、資産を保有する際にかかるコストが低く(c)、流動性プレミアムが高く(l)、将来の価格上昇が見込める(a)ものになる。

今、資本市場が均衡しているとき、すべての資産について自己利子率が等しくならなければならない。なぜなら、「均衡において、貨幣によって測られた住宅と小麦の需要価格は住宅と小麦の、どちらを選んでも利益の面で無差別にならなければならない」からである。ここで、当該資産への投機はa、1に支配的な影響を与え、長期的な収益期待はqに影響を与える。このように、流動性選好理論においては人々の「期待」が利子率決定について極めて重要な役割を演じるのである。

ケインズは、貨幣についても自己利子率が存在するとした。貨幣の特徴は、qがゼロで、cが無視しうる程に小さいが、lは極めて大きいところにある。なお、貨幣の場合、それ自身が計量基準になるため、aは常にゼロである。

ここが貨幣の特殊な点であるのだが、貨幣の特徴である $q=0$ 、 $c=0$ 、 $a=0$ を自己利子率の式に代入すると、貨幣利子率 r_m は

$$r_m = l$$

となり、貨幣利子率は流動性プレミアムという極めて主観的な変数によって決定されるということがわかる。

ここで、貨幣利子率に決定的な影響を及ぼす流動性プレミアムは、客観的な評価基準が存在せず、投機家の主観によって測られるものである。投機が加熱すると、流動

性プレミアムの変動が激しくなり、金融市場は極めて不安定になる。結果、恐慌が発生し、資本の限界効率の崩壊により投資が激減し、大量の失業者を路頭に迷わせることになるのである。ケインズは「投機家は、企業の着実な流れに浮かぶ泡沫とならば、なんの害も与えないであろう。しかし、企業が投機の渦巻のなかの泡沫となると、事態は重大である。一国の資本発展が賭博場の活動の副産物となった場合には、仕事はうまくいきそうにない。」と述べ、長期的な経済活動を通じて収益を上げる「投資」に対して、短期的な収益を求めて様々な資産を売買する「投機」が優位を占めることを懸念し、警句を発してきた。自身も投資家であったケインズは金融システムに非常に精通しており、このような行動を抑制するために証券の短期売買に対する規制を強めるべきだと主張した。

また、金融システムそのものの設計も重要であると論じ、当時のアメリカとイギリスの金融システムを対比させて、庶民が手軽に株式を売買できるアメリカのウォール・ストリートは、庶民の手が株式投資に及ばないイギリスのロンバード・ストリートより劣っていると論じた。つまり、投機狙いで庶民が株式投資に参加すると、より金融は不安定になるというのだ。それゆえ、金融市場、株式市場は庶民を遠ざけるようなシステムとして設計すべきであると論じた。

なお、ここには、アメリカに覇権を奪われつつあった自国を擁護するナショナリスト・ケインズとしての性格が強く現れているとも言われる。しかし、ケインズの金融分析からこのような結論を導くことはさほど難しくはなく、ケインズ自身のナショナ

リズム感情を差し引いても、ケインズがどのように論じた意味は決して小さくないと考えられる。

つまるところ、貨幣利子率は投機家の主観に基づいた流動性プレミアムによって決定され、投機が加熱すると流動性プレミアムが不安定化し、結果金融市場全体が安定性を失う。ケインズが古典派の「利子は貯蓄への報酬である」とする命題を拒絶し、一見同じようことであるかのように思える「利子は流動性を手放すことに対する報酬である」としたのも、流動性プレミアムという主観的な要素が金融市場に大きな影響を与えるということを論じる意図があったと思われる。

このように、流動性選好論は単なる利子率決定理論としてみるよりも、人々の期待をも織り込んだ金融システム全体を描写する包括的な理論としてみるべきであろう。実際、一部のポストケインジアンは流動性選好論を高く評価し、複雑で高度化された現代金融システム分析の基礎としている。

しかしながら、このような見方とは対照的に、ケインズ理論を体系化したとして今日でも強い影響力を持っている IS-LM モデルにおいては、流動性選好論はかなり乱暴に扱われている。この IS-LM モデルが強い影響力を持つに至ったのも、正統派ケインジアンの流動性選好論への興味のなさを示しているとも言えよう。

このモデルにおいて、LM 曲線(貨幣需要-貨幣供給曲線)は以下のように示される。

$$M=L1(Y)+L2(r)$$

ここで、L1 は取引的動機や予備的動機による貨幣需要、すなわち日々の取引や思いがけぬ決済のときに使用するための貨幣需要である。これは、所得 Y の増加関数であるとされ、暗黙のうちにいわゆる「マーシャルの k」が安定的であると仮定されている。

L2 は投機的動機による貨幣需要で、利子率 r の減少関数であるとされる。流動性選好理論はここにおいて、モデルに組み込まれている。なお、左辺の貨幣供給量 M は金融当局によって外生的に決定される。

このモデルは一見「マーシャルの k」の概念とケインズの流動性選好理論を上手く接合しているようにみえる。しかし、既に見たように、流動性選好理論は L2(r) という単純な式で表せるものではない。また、ケインズが「貨幣論」で内生的貨幣を詳細に論じているにも関わらず、貨幣を完全に外生的な変数として扱ってしまっている。それゆえ、このモデルからは数々の瑕疵を発見することができる。

例えば、所得 Y の増加により L1 が増加すると、貨幣量 M が変動しない場合 L2 が減少して利子率 r が上昇するという、流動性選好理論とは似ても似つかないモデルになっている。これは一般的に「クラウドイングアウト」と呼ばれ、財政政策による需要喚起政策の無効性を論じるための理論的根拠になってしまっている。

本来、L2(r) の因果関係は $r \rightarrow L2$ である。しかし、貨幣を外生変数とし、利子率を内生変数としたことから因果は逆転してしまい、 $M, L1 \rightarrow L2 \rightarrow r$ という関係になっている。伊東光晴は、ある事象から相関を見出し、無理矢理因果を逆転させる手法はマネタリストと同じであると評し、IS-LM モデルを強烈に批判している。

拡張された流動性選好理論

前述の通り、正統派ケインジアンは流動性選好理論について否定的な評価を下していた。実際、ケインズ派の研究の中心はケインズの手法に沿って実物的側面に焦点をあてたものが多い。

しかし、ケインズの流動性選好理論が完全に忘れ去られたわけではなかった。ポストケインズ派の重鎮であるミンスキーは、ケインズの流動性選好理論を手掛かりに、自身の金融不安定性の理論を構築していった。その成果を「金融不安定性仮説」としてまとめ上げ、彼の死後発生したリーマンショックを上手く説明できる理論として脚光を浴びることになる。

ミンスキーは1919年、アメリカのシカゴに生まれた。その後シカゴ大学に入学すると、ケインズ最大の論敵とも言われるヨーゼフ・シュンペーターに師事した。今でこそシカゴ大学は自由主義の総本山的存在として知られるが、当時は社会主義を擁護し、ハイエクらの一般均衡理論に基づく市場主義理論を批判したランゲなど、多方面の優れた論客が在籍していた。

シュンペーターは技術革新について論じた経済学者として著名である。ミンスキーはシュンペーターの技術革新理論を金融市場に応用し、金融市場においても利潤追求が技術革新、すなわち新たな金融商品の誕生を促し、結果金融機関がレバレッジを拡大させると論じた。しかし、財市場の技術革新とは異なり、金融市場の技術革新は金融市場を不安定化させる原因になるため、必ずしも好ましいものではない。

ここに、ミンスキーは、ケインズの不確実性の概念を導入する。中でも、流動性選好理論は既に見たように不安定な「期

待」を中心に扱っている。利潤動機による金融技術革新によってもたらされる不安定性を、ケインズの理論で分析しようというのである。

ミンスキーによるケインズとシュンペーターの融合は、同時期のポストケインジアンであったカルドアとは正反対の方法であると言えよう。カルドアもケインズとシュンペーターを融合させて自らの理論を發展させたが、これはケインズにより確立された有効需要理論に、シュンペーターの技術革新分析を組み込んだものであった。いわば実物的な側面から両者を統合したのである。それに対し、ミンスキーは金融の不安定性、経済の不確実性という貨幣的な側面から分析を試みたのである。

ミンスキーの流動性選好理論の特徴は、流動性選好を「比較的流動性の低い資産からより流動性の高い資産への選好」と捉え直したところにある。

ケインズは、時代背景もあり、何の疑いもなく「貨幣」という概念を用いたが、そもそも何が貨幣であり、何が貨幣でないかの明確な定義は存在しない。また、貨幣について定義付けをしたところで、新たに「貨幣に似た何か」が金融機関の技術革新によって生み出されてしまうならば、その定義はもはや意味をなさないであろう。事実、統計当局の「貨幣量」の定義は金融の技術革新に合わせ、度々見直されている。

そのため、流動性選好をケインズ的な「貨幣への選好」と狭く捉えるより、流動性の高い資産への選好と広く捉える方が実態に即していると言える。つまり、流動性選好とは、流動性とトレードオフの関係にある収益性を捨て、より流動的な形で資産を保有したいという欲求である。ここでい

う「流動的な資産」は、当然ながら貨幣に限定されない。

また、ミンスキーは従来の流動性選好理論で無視されてきた負債についても考慮すべく、流動性選好の概念を資産のみにとどまらず負債にまで拡張した。従来のケインズにおける流動性の概念としては、保有する資産をいかに「短い予告で、損失なしにいっそう確実に換金可能」であるかという部分に焦点が当てられてきたが、ミンスキーにおいては、負債を支払う能力としての流動性の価値も加えられた。通常、資産を保有する際には大なり小なり債務を負っているのが一般的であり、債務の状態は流動性選好に影響を与える。債務の大きさや債務返済までの期間、債務を持ち越すために掛かる費用等によっても流動性選好の度合いは大きく変わってくるということである。

ミンスキーは、財務状況がどれほど堅牢か、あるいはどれほど脆弱かを測定する基準としては、主に2つ存在するとした。

第一に、その経済主体のバランスシートの流動性の状態である。これは、将来の契約を決済できる程の流動性を備えているかに依存する。流動性が低い状態においては、莫大な純資産を抱えていながら、債務決済可能な流動性を保有していないため、資金がショートしてしまうなどの事例が発生する。

第二に、その経済主体の債務の支払い能力である。保有している資産の価値が負っている債務と同等の価値を持っているかどうかによって判断される。保有している資産価格が暴落すると、保有資産額が債務額を下回り、債務超過に陥ることがある。

このように、財務構造の堅牢性(脆弱性)には負債が大きく関わってくる。そのため、流動性選好理論は諸資産だけでなく諸負債にまで拡張される必要があるのである。

また、ミンスキーは流動性選好理論を単なる利子率決定の理論とは見ておらず、「真の姿において、一般理論は『雇用、資産価格および貨幣の一般理論』という標題が付けられるべきであろう……事実、利子の流動性選好説は、資本主義経済における資産価格決定の理論である」と述べている。つまり、利子率と逆転関係にある資産価格を決定するという点に着目し、この資産価格の上下こそ金融市場分析に密接に関わってくると論じた。

当然ながら、資産価格の決定においても主観的な要因である流動性プレミアムが大きく関わってくる。

また、投資主体はしばしば不確実性のもとで流動性を選好する一方で、見通しが楽観的であるときは収益性を求め、バランスシートを拡大しようとする。そのため、次々と収益性の高い金融資産が生み出され、金融は脆弱化する。またこれは既存の金融規制を回避することができるというメリットも兼ね備えている。そして、どれほど収益性を選好するか、また流動性を選好するかは、専ら投資主体の期待に依存する。

こうして組み立て上げられたのが、ミンスキーの金融的景気循環理論である。これはカルドア=カレツキ型景気循環理論などとは異なり、金融の持つ独特のメカニズムを景気循環の中核要因に据えた。その意味では、オーストリア型景気循環理論に近いものである。以下、ミンスキーの金融的景気循環の過程を示す。

今、経済が好況であるとする。このとき投資家は収益を求め、より収益性の高い、すなわち流動性の低い資産を選好する。銀行も同様に収益を求め、バランスシートを拡大しようとする。こうして、投資家も銀行も次々リスクを取るようになる。こういう状況下においては、しばしば資産バブルを伴い、資産への投機も活発になる。こうして、金融システムは次第に脆弱になっていく。

しかし、このような状況は長くは続かず、次第に収益性が低下し、やがて好況は終わる。すると、これまでとは逆回転の経済の運動が発生する。企業は債務の返済のため流動性を欲す。銀行も企業から確実に債権を回収すべくバランスシートを縮小し、また不確実性に対処するため自らの流動性を高める。将来の価格上昇を見込まれて作り上げられた資産バブルは弾け、資産価格は急下落する。かくして、恐慌が発生するのである。

ミンスキーは、この循環を抑制するためには金融機関への規制が重要な役割を果たすと考えた。銀行は好況時バランスシートを拡大しようとするため、この銀行の行動を規制によって抑えつける。企業や投資家は銀行から資金を調達しないと新規投資を実行できないため、銀行への規制は様々な経済主体の暴走を防ぐ役割もある。

しかしながら、銀行は規制を回避するために、新たな金融商品を生み出す。そのため、旧来の規制は時間とともに空洞化するので、規制を絶えずアップデートし続けるべきだとも論じていた。

このミンスキーの一連の理論は、ミンスキーの死後発生したリーマンショックに際してにわかに脚光を浴びることになる。既

存の経済学では説明できない、金融市場の事実上の崩壊という未曾有の自体は、経済学者の間で共有されていたコンセンサスを根底から破壊し、改めてミンスキー、そしてケインズを見直すべきとの認識を高めたのであった。

おわりに

ケインズはマルクスやスミスと並んでよく知られた経済学者の一人である。一般においてケインズは、修正資本主義に代表される、政府の市場経済への介入を正当化した学者、という認識で語られることが多い。しかし私は、ケインズは「不確実性の経済学者」であるという点を強調しておきたい。それが顕著に現れているのが本稿で取り上げた流動性選好理論なのであるが、ケインズはその他の理論についても、不確実性という前提のもとで理論を組み立てていることがわかる。そのため、一見別物に思えるケインズの様々な理論は、不確実性という土台を通じて結び付けられるのである。流動性選好理論、またその背景にある不確実性は、貨幣経済の特徴と言ってもよく、経済を論じる上で常に欠かせない概念である。この概念を人々が忘れて、机上の経済理論が席卷するようになったとき、まさにケインズがやってくるのである。我々はケインズを脳の片隅に置き、常々意識し、その意義を絶えず問い続けるべきである。

参考文献

J. M. Keynes (1936) 「雇用・利子および貨幣の一般理論」 塩野谷九十九訳-東洋経済新報社

Hyman, P. Minsky (1986) 「金融不安定性の経済学—歴史・理論・政策」 吉野紀、浅田統一郎、内田和男共訳 多賀出版

伊東光晴(2006) 「現代に生きるケインズ—モラル・サイエンスとしての経済理論」 岩波新書

服部茂幸(2012) 「危機・不安定性・資本主義—ハイマン・ミンスキーの経済学」—ミネルヴァ書房

木村雄一(2020) 「カルドア 技術革新と分配の経済学—一般均衡から経験科学へ—」 名古屋大学出版

稲垣寛(1967) 「ケインズ「自己利子率」概念についての若干の検討」 <https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/6711/kenkyu0001400480.pdf>

渡辺良夫(1996) 「ケインズの自己利子率理論」 https://repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/1932/1/shogakuronso_78_1-2-3_133.pdf

渡辺良夫(2019) 「ポスト・ケインズ派経済学における流動性選好の位置：ケインズ—ミンスキー・アプローチ」
https://doshisha.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=26500&file_id=28&file_no=1&nc_session=tcobf8ggr3vm74ph6kdmgoree0

新島 襄 と 内村 鑑 三

渡邊 将哉

1. はじめに

我が高校、名古屋高校はプロテスタントのキリスト教主義学校である。我が高校の卒業生の多くは新島襄の創立した同志社大学へ進学している。また、我が高校で一時教鞭を執っていた人物がいる。内村鑑三である。

私、そして我が高校と深い関わりのある新島襄と内村鑑三。彼らのたどった道、目指した道の根底にはキリスト教があると考えた。他にどのような共通点があってどのような相違点があったのか、2人のそれぞれの信念は何であったのか、考察していきたい。

2. 新島襄とは

新島襄は1843年（天保14年）、安中藩の下級武士の長男として生まれ、1864年（元治元年）、21歳の時に国禁を犯して函館より上海を経由しアメリカ、ボストンに向かった。彼はボストンに到着し、その後フィリップス・アカデミー在学中に受洗。卒業後はアーモスト大学で初の日本人学生としてウィリアム・スミス・クラークなどから学んだ。

新島襄はアンドーヴァー神学校在学中に、三等書記官として岩倉使節団に合流し、1年余アメリカ、ヨーロッパの教育制度の調査や視察をおこなった。そこでキリスト教主義学校の日本における必要性を感じる事となる。そこで、1874年（明治7年）、宣教師として帰朝し、はじめは大阪に設立予定であったが、京都の地、旧薩摩藩二本松屋敷跡の桑畑に同志社英学校を設立した。そこには山本覚馬の大きなはたらきと協力がある。しかし、1890年（明治23年）46歳で死去した。

3. 「自責の杖」事件

新島襄の教育者としての愛情を感じる逸話として、「自責の杖」事件がある。それはある事件に対しての学校側の措置に不満を抱いた九人の生徒が学校に抗議したものの、その抗議が学校に受け入れられることはなく、生徒はストライキを起こした。当時の同志社の規則では、集団欠席した生徒は処罰されることになっていた。しかし、学校側も不適切なことがあり、それによって新島襄はこの問題について深く考え込んでしまい、事件後の朝のチャペル礼拝の時間に、全校の生徒と教員の前でこの問題に触れて、「自分は生徒を責めはしない。それにまたその措置を決めた教員も責めはしない。しかし校則は守らねばならない、ゆえに校長自身を処罰します。」と宣言して、壇に上がる時から手にしていた杖で自分の左の掌を力いっぱい打ち始めた。杖は折れ、掌に血がにじみ出た。ついに前列にいた生徒が飛び出して行って新島襄にしがみつき、「止めてください」と叫んで懇願した。なおも打ち続けようとしたがついに新島襄は折れ、「諸君は同志社の規則の重んずべきは御解り

になりましたか、又今回の事件に就き、再び評論をしないと約束なさるなら止めます」(1) と言って、チャペル礼拝は終了したのであった。という事件である。

新島襄は教育者として、姑息な人間にはなつて欲しくはなかつたようだ。新島襄の『片鱗集』にはこのような一節がある。「わが校の門をくぐりたるものは、政治家になるもよし、宗教家になるもよし、実業家になるもよし、教育家になるもよし、文学者になるもよし、且つ少々角あるも可、奇骨あるも可、ただかの優柔不断にして安逸を貪り、苟くも姑息の計をなすがごとき軟骨漢には決してならぬこと、これ予の切に望み、ひとえに希うところである。」と。新島襄は生徒に「自由」な考えを持った紳士になって貰いたかつたのだ。

4. 新島襄と内村鑑三の恩師シーリー

ジュリアス・ホーリー・シーリー (Julius Hawley Seelye) は1845年にアーモスト大学に入学。1858年から1890年までアーモスト大学にて精神と道德哲学の教授をつとめ、1877年からアーモスト大学5代目総長となる。

新島襄とは教授時代に出会い、新島襄のホストファミリーとなる。内村鑑三とは総長時代に渡米中の新島襄の紹介により出会う。内村鑑三はシーリーによって信仰上の回心を経験することとなる。

5. あるアーモスト大学の卒業生

アーモスト大学に日本と深い関わりを持つ卒業生がいる。その人物が北海道札幌郡の月寒島松にて放つたこの言葉はあまりにも有名である。「Boys be ambitious!」ウィリアム・スミス・クラーク (William Smith Clark) である。

1826年にマサチューセッツ州で生まれたクラークは1844年にアーモスト大学に入学、1848年に卒業した。1852年にアーモスト大学の教授となる。南北戦争を経てアーモスト大学で教えていた時にアーモスト大学初の日本人学生と出会う。新島襄である。新島襄のすすめや日本政府からの要請により彼はいわゆる「お雇い外国人」の肩書きを持って札幌農学校の初代教頭として来日した。

彼は札幌農学校にいたおよそ八か月の間に農学校一期生に科学のみならずキリスト教的道德教育を施し、結果一期生全員がキリスト教徒となった。二代目教頭となったウィリアム・ホイラー (William Wheeler) もその精神をよく引き継いだ。札幌農学校二期生には旧五千元札や「願わくは、吾太平洋の懸け橋とならん」等で有名な新渡戸稲造などがいる。

6. あるアーモスト大学の卒業生 内村鑑三

先ほど「新渡戸稲造などがある」と書いた。もちろんほかにもいる。新渡戸稲造と同じ二期生にしてもう一人の著名人、内村鑑三である。

内村鑑三は日本における明治、大正時代の代表的なキリスト教の指導者の一人で、万延二年（1861）に江戸で生まれ、1877年に札幌農学校に入学、そこで新渡戸稲造らと共に「イエスを信ずる者の誓い」に署名。1881年に卒業し、1885年にアーモスト大学に入学、1887年に卒業。在学中にシーリー総長に大きな影響を受ける。

1891年、第一高等中学校の囑託委員を務めている際の教育勅語の拝戴式にて明治天皇の御真影と教育勅語に対して最敬礼をしなかったとして強い批判（いわゆる不敬事件）を受けて第一高等中学校を辞職した。

その後は新聞社「萬朝報」に就職するも日露開戦をめぐって幸徳秋水、堺利彦らと共に萬朝報を退社。その間にも足尾銅山鉍毒事件反対運動に参加するなどこの国をより良くするために闘った人物である。1930年没。

7. 「不敬事件」と「二つのJ」

不敬事件とは、先程も記したとおり内村鑑三が第一高等中学校の囑託委員を務めている際の教育勅語の拝戴式にて明治天皇の御真影と教育勅語に対して最敬礼をしなかったとして強い批判を受けて鑑三が第一高等中学校を辞職した事件である。

この行為のもととなる考え方はどのようにして生まれたのか。誤解されがちであるが、内村鑑三は教育勅語、御真影に対して敬礼をしなかった訳では無い。軽く敬礼をしたのだ。それが不忠であるとされたのである。内村鑑三は教育勅語が示す内容そのものに反対はしなかった。しかしそれに最敬礼をする、つまり礼拝の対象とするべきものでは無いと考えたようだ。しかし雑誌や新聞などのメディアがより大きく煽りたて、多くの生徒たちは内村鑑三の弾劾を求めた。その後内村鑑三はインフルエンザに罹患し、生死の境をさまようこととなる。その間には国粋派とキリスト教徒との間で舌戦が行われた。

それにしても、そのような時代に自分の信念に基づいて自分の信条を守り通したというのはたいそう勇気のいる素晴らしい行為であるというべきであろう。その根底には「二つのJ」があると考えられる。

「二つのJ」とは、「Jesus(ジーザス)」つまりイエス・キリストと「Japan」つまり日本の二つのJで、そのふたつは内村鑑三が愛し、護ろうとしたものである。アーモスト大学在学中やハートフォード神学校在学中に感じた新島襄とは逆の考え、つまりアメリカにおけるキリスト教の失望とシーリー総長によって回心したことへの多少の後ろめたさが元々持っていたJapanへの愛をより強くしたと考えられる。

これは名古屋高校図書館にて展示されている内村鑑三直筆の墓碑銘からもよく分かる。I for Japan; Japan for the World; The World for Christ; And All for God. である。彼こそ真の愛国者ではないだろうか。ずっと日本にいる人物には分からない、外から見た日本を知っている内村鑑三ならではだと思ふ。

似たような考えを持っていたキリスト教徒がいる。前述の新渡戸稲造である。かれは彼の著書『武士道(The Soul of Japan)』で日本の古きよき武士の精神、言い換えれば本来

の大和魂について体系的にまとめている。新渡戸稲造は内村鑑三と共に札幌農学校にてアーモスト大学卒業のクラークから学んだ人物である。

彼らの中にもアーモスト大学の精神、血が流れていると考えられる。このアーモスト大学でシーリーから学んだ新島襄と内村鑑三は考え方は違えど「同志」であることには変わりないであろう。

8. 新島襄と内村鑑三の共通点と相違点

新島襄と内村鑑三の共通点と相違点をまとめていくこととする。まず、日本人キリスト教徒であること。これは疑いようのないことである。次に教育者であること。これは新島襄が同志社大学、内村鑑三が第一高等中学校や名古屋英和学校（現在の名古屋高校）で教鞭を執っていたことから分かる。他に、当時の人間にしては珍しく、渡米し、留学し、アーモスト大学に入学し、シーリーから教えを受けたことである。

しかし、これは同時に相違点でもある。相違点というのは、まず渡米の仕方が違うという点である。新島襄は国禁を犯して渡米したが、内村鑑三は新島襄の勧めもあり正式な留学生として渡米したということである。また、同じくシーリーから学んだが、その環境が違う。新島襄は一時的とはいえ教授時代のシーリー宅にホームステイをした。内村鑑三は総長になってからのシーリーから教えを受けた。また、渡米した時の状況も少し違う。新島襄が渡米したときは、国の首脳部は世界を知らなかった。しかし内村鑑三のときは明治となり、首脳部は世界を知っていた。なればこそ新島襄は日本の悪しき文化に失望しアメリカのキリスト教に感動したのだろう。なればこそ内村鑑三はアメリカのキリスト教教育に失望し日本の文化の素晴らしさを知ったのであろう。渡米前にキリスト教を知っていたかどうかということも重要な点であるかもしれない。

ほぼ同じ時期に生きていた共通点の多い2人であるが、相違点もこれだけある。神についての解釈もたくさんあるのであろう。ただ「敬神愛人」の精神は人生を生きていく上で大切なことなのではなかろうか。(4298字 参考文献含む)

注：(1)『新島襄と徳富蘇峰—熊本バンド、福沢諭吉、中江兆民をめぐって』 本井康博 2002 p. 25

9. 参考文献

- 『新島襄』 岡本清一 同志社大学出版部 1952年発売
『新島八重と新島襄「幕末のジャンヌ・ダルク」と「平和の使徒」と呼ばれた夫婦』
楠木誠一郎 PHP 研究所 2012年
『山本八重 銃と十字架を生きた会津女子』 楠戸義昭 河出書房新社 2012年
『名古屋学院百年史』 名古屋学院百年史編集委員会 1987年
<https://www.amherst.edu/> 最終閲覧 10/17
<https://diamond.jp/articles/-/217740?page=2&display=b> 10/17

https://news.tiiki.jp/05_research/survey2020 10/17

<https://www.meigaku.ac.jp/about/history/> 10/18

http://ax-1549-ax.cocolog-nifty.com/blog/2007/05/post_c8a3.html 10/18

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%82%AD%E3%83%9A%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%A2> 10/18

<https://www.google.co.jp/maps/?hl=ja> 10/17

<http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/ICHIKOH/album02.html> 10/18

(渡邊 将哉 名古屋高等学校 2 年生 2020 年度)



台湾一周 そして…

中間地点を過ぎてついに雨が降り出す。途中いくつか寄りたいたところもあったが、ノンストップで飛ばす。あと20キロほどになっていよいよ本降りに。やっとの思いで「鳥窩花蓮青年旅舎（フアーリエン バーズハウスホステル）」に到着。宿についたころには雨は上がっていた…

翌朝、自強号（特急列車）に乗り、台北

に帰還。これで一応環島を完遂した。帰国前日に台北市内の松山駅前にある環島一号の0キロ地点へ。本来なら旅の始めにここで撮影しておくべきだったが、うっかり見逃していたのだ。

出発前はどうかと思ったが、実に楽しい旅だった。台湾は人が優しく、物価も安い。道も大半の箇所が整備されている。何より各地のうまい名物が食べられる。電車やバスではなかなかこうはいかない。

（佐藤 和道 名古屋高等学校 3年 国語科 二〇二〇年度）



松山駅前の0キロ地点。コロナの終息と再訪を願いたい。

だが、まだ訪れていないところも多い（実は台南〜高雄は未踏破のため、厳密には一周していない…）。7つあるという離島も走ってみたい。今は無理だが、落ち着いたら再び旅を始めるつもりだ。

ころが四重溪温泉。せっかくなので「茴香恋恋温泉会館（フェンネルホットスプリングリゾート）」の日帰り温泉へ。屋外では水着必須だが、屋内なら日本同様裸でOK。山登りでかいた汗を流す。



アーチにパイワン族の文様が見える。

再び走り出すとすぐに石門古戦場。日本統治時代にパイワン族が日本軍と戦った牡丹社事件が起きた場所という。事件を語るレリーフやパイワン族の伝統文様を眺めながら山を登る。500メートルくらい上つ

てようやく頂上の寿卡（寿峠）に到着。ここは東西の中間地点で無料の休憩所がある。ヒルクライムのメツからしく大勢のサイクリストが休憩していた。さっき買った豚足で昼食休憩。濃い目に煮つけられた豚足はかなりの食べごたえだった。

山を下つていよいよ東海岸へ。この日は逆風の上、時折ある急な上り坂に苦戦。眼下に広がる青い太平洋を横目に必死で自転車を漕ぐ。夕方台東に到着。前回は街の外れだったので、今日の宿は中心部に近い「遊民公社（ホステル フーノーズ）」夜、食事に出かけると、何やらにぎやかな行列が。「陣頭」という太鼓を先頭に仮装した人たちがぞろぞろと通り過ぎて行く。清明節（お盆のような行事、台湾では祝日）のお祭りだろうか。

4 / 1 台東↓花蓮 約180km

台東↪花蓮間は海線と山線の二線がある。前回、海線を走破したので、今回は山線へ。起伏ある道を進み、40キロほどで関山に



関山弁当。ご飯の上に肉・野菜・卵がぎっしりと敷き詰められていた。

到着。前回訪れた池上と並ぶ米どころ。池上に比べれば小さい街だが、それでも関山弁当の看板がちらほら。10種類ほどある中から、一押し「関山弁当」を購入。この日は曇り。いつ雨が降り出してもおかしくない为先を急ぐ。

池上はバスし、昼前に玉里に到着。名物は玉里麵。駅前の比較的新しい店に入り、干麵（汁なし）を注文。醤油ベースの細麵にもやしと肉というシンプルなもの。名物というわりには素朴な味わい。



道沿いに出店がずらりと並んでいた。

ウオの丸揚げはなかなかの迫力だった。

この日の宿は「墾丁返璞帰真背包客棧（ケンティン オリジナル ホステル）。大通りから一本入った路地裏にある。墾丁はビーチリゾート地のため、サーフィンや海水浴客でこった返している。夜は大通り一帯が夜市になり、お祭りのように賑やかだ。

3 / 31 墾丁 ↓ 台東 約120km

早朝、宿を出て10キロ先の鵝鑾鼻（ガランピ）岬へ。ここが真正正銘の台湾最南

端。一端宿まで戻った後、昨日来た道を引き返す。



ここからは徒歩。この先が最南端。

環島一號は昨日通過した車城から山を越えて東海岸に抜けるルートになっている。海沿いを抜ける道もあるが、整備されていない恐れがあるので、安全策を取る。

昨日は素通りした恒春に立ち寄る。清朝末期に建てられた城壁と東西南北の城門に囲まれた風光明媚な街。まず「小杜包子」で十数種類ある包子（中華まん）の中から、



日本人と台湾のつながりを描いた作品。2008年に大ヒットし日本でも公開された。

モチ餡入りとタケノコ入りを購入。次いで台湾映画『海角七号』のロケ地となった「阿嘉之家」へ。まだ早すぎて誰もいなかった。

さらに北上して分岐点となる車城へ。「黄家绿豆蒜」で绿豆かき氷を食べる。有名店らしく、開店直後なのに一気に席が埋まる。「熊家万巒猪脚車城店」で昼食用の豚足をテイクアウト。店内はランチタイムの仕込みの真つ最中。巨大な豚足が山のように積まれていた。一山登ったと

ホアンダオ

台湾環島記 ③

《南部編》 佐藤和道

3回目は残す高雄〜台東間の走破を目指す。加えて前回面白そうだった台東〜花蓮の山線も走る。

(2019年) 3/29 名古屋↓台北

今回も中華航空をチョイス。飛行機輸人もずいぶんスムーズになった。宿はこれま



今回のスタート地点、高鉄左營駅にて。

で一番台北駅に近い「梅棧駅(メイン・イン・タイペイ)」。駅前地下街から地上に出てすぐのところにある。1階がガレージになっており、自転車も置いて便利だ。

3/30 高雄↓墾丁 約100km

台湾新幹線(高鉄)で終点の左営駅(高雄)へ。所要時間は約2時間。最近ドラマでもやっていたが車両は日本製。中は日本の新幹線とほとんど変わらない。駅の外で自転車を組み立てると、強い日差しで走る前から汗が吹き出す。

高雄の市街地を抜けて屏東県の潮州へ。名物の牛雜湯を食べる。九層塔(中華バジル)を入れるのが潮州風。さっぱりした風味で暑い季節にぴったり。デザートはこれも名物の冷熱氷。この不思議な名前は、小豆やモチなど温かいスイーツの上にかき氷が載っているかららしい。

南下して海沿いの道へ。途中、独特な絵が描かれた看板が並ぶ。どうやら菱の実を売っているらしい。甘くない栗のような味。



南部の街恒春を通過し、宿の前に猫鼻頭岬へ。「那個魚(あの魚)」という魚を食べるためだ。日持ちがしないので、ここでしか食べられないという。閉店ぎりぎりの五時ごろ到着。一口大の自身の魚が素揚げになっていた。日本人としては刺身で食べてみたいところ。隣にあったトビ

奇岩の宝庫だった。

夕方5時ごろ、本日の宿泊地「Mr. Red Tea B&B（紅茶先生民宿）」に到着。バイクで環島中という青年と同居屋に。高雄から逆回りで回っているという。こちらは自転車だと言ったら大変驚かれた。夜は米どころ台東の米苔目（米粉のウドン）。帰りに名物の「釈迦頭」を購入。固そうな



池上にて。金城武がCMで使った木。

外見とは違って中身はクリーミー。濃厚な甘さが癖になりそうだ。

急列車）はネットで事前予約しておいた。運賃は2000円ほど。3時間半で台北に着く予定。出発まで時間があるので、「池上米」で有名な池上に寄ることに。駅前には「池上弁当」の店がいくつも並ぶ。折角なので自転車を組み立てて辺りを散策。一面緑の田園地帯。遠くには美しい山並み広がる。次はぜひ山線にもチャレンジしたいと思いつつ台北まで帰った。

8/31 台北→基隆 約50km

台湾の夏は台風が多い。交通がストップすることを考えて、一日予備日を設けておいた。そこでこの日はルートから外れていた最北部へ行ってみる。まず淡水河西岸の街八里へ。関渡大橋まで引き返し、今度は

対岸の淡水から北海岸路線に抜ける。6日目にして初めての晴天。青空と青い海岸が美しい。途中金山近くの金宝山山頂にある鄧麗君（テレサ・テン）墓地へ。登ってみるとかなりの激坂。一度行き過ぎてしまい、坂を二度上ることに。この時無理をしたせ

いか、帰国後大臀筋の肉離れを発症してしまった…。墓地には大きなピアノを模したモニュメントと黄金のテレサ像が置かれており、人が近づくとテレサの曲がかかる。歌声を聴きながら、買っていただいた好物の油飯（中華おこわ）を食べた。

そのまま北方の都市基隆へ。路地裏にある「孝三大腸圈」では、茹でた豚のあらゆる部位を煮る。軟管（食道）・粉腸（十二指腸）・大腸頭（肛門）などをテイクアウト。無事完走の祝杯をあげた。



テレサ像。墓地に歌声が響く。

8/30 台東→台北

この日は電車で台北まで戻る。自強号（特



海線0km地点。180km先の台東を目指す

という。これは日本でいう「ワンタン」。台北では「餛飩」と書く。創業80年という「花蓮液香扁食」には日本語メニューもあった。おいしかったけど、まあワンタンだった：

8/29 花蓮↓台東 約180km

この日は最長の180kmを予定。予報は雷雨、ほぼ丸一日雨の予想。この区間には山線（花東縦谷公路）と海線（花東海岸公路）の二つのルートがある。山線は高低差があるが、鉄道沿線のため途中で列車に乗



ることが可能。海線は下平坦だが途中休憩できる店もほとんどない。前日からずいぶん悩んだが、出発した時点で気持ちは95%山線。雨が降り出したら輪行すればいいやと考えていた。
10kmほど行ったところで海線・山線の分岐点に到達。まだ雨は降りだしてはいない。「行ける所まで行ってみよう」と、直感的に進路を海線に変更。だが30分ほどで雨が降り始め、すぐに前が見えないほどの豪雨に。濡れるに任せて、車すら通らない道路をひたすら進む。50km先の豊崎が最初

の集落、その先は35km先の長浜まで、コンビニなどは皆無だ。
北回帰線を示す塔を横目に、最初の観光スポット八仙洞に到着。滝のような雨の中、岩場に点在する洞窟をめぐる。ビンディングシューズが滑って歩くのに四苦八苦した。さらに二時間ほど進むと、遠くに特徴のある橋が見えてきた。前から来てみたかった三仙台だ。幸いこの時だけ小雨に。折角なので橋を渡って対岸の島へ。周囲は

海岸線に出たところが駅弁で有名な福隆。近くの公園で腹ごしらえする。雨が降り出す中、本島最東端の三貂角を経ていよいよ宜蘭県へ。老街（古い町並み）の残る頭城を見物し、2時15分「Green Park Homestay（緑大地民宿）」に到着。広い一軒家が貸し切り状態だった。

夜は歩いて羅東夜市へ。公園一帯に出店が広がる。人をかき分けなければ進めないほどの混雑ぶり。宜蘭といえば三星葱。人氣店の「七巧味三星葱多餅」は待ち時間30分超。ほかにも「花生糖」というピーナツ菓子のクレープ卷や、天麩羅に似た「ト肉（ブローウ）」、「糕渣（ガオザイ）」など、宜蘭グルメを堪能した。

8/28 羅東→花蓮 約100km

この日は環島最大の難所、蘇花公路を越える。ここはトンネルが連続する上、大型トラックが行き交う危険箇所。公式案内でも列車移動を推奨している（地図の点線部分）。雨天時は落石もあると聞いていたが、



断崖絶壁の絶景が続く。慣れた人なら決して危なくないと思うが…

幸い天候は曇り。意を決して出発する。蘇澳の街から蘇花公路へ。聞いていたほど荒れた道ではなく、日本の一般的な峠道レベル。路肩が狭いのでぎりぎりまで幅寄せされるが、危険を感じるほどではない。一方で眼下に広がる海は絶景。青さが明らか

かに違う。300mの峠を二つ越えて南澳で小休止。日が差してきて暑い。この後新道と合流し車が増え始める。時折落石注意箇所も。特に花蓮側のトンネルは若干狭いので、走行には注意が必要だ。

蘇花公路を抜けると急に雨模様になる。2時ごろ花蓮着。チェックインには早いので、有名な葱油餅の店へ。これは葱油で小麦粉を揚げたもので、葱は入っていない。似たような店が並ぶ中、ひとときわ人が多い「炸弹葱油餅（黄車）店」へ。名前の通り黄色いワゴン車が目印。番号札をとって、呼ばれるのを待つ。いくら待っても呼ばれずはや1時間。卵入り30元。ようやくありつけた揚げたては確かにうまいが、1時間待って1分ほどで食べてしまった。宿は花蓮駅前の「Lovely Bean Hostel（億豆背包客）」。店の親父に花蓮名物を聞くと、「扁食（ホウントウン）」だ

ホアンダオ

台湾環島記 ②

《東海岸編》 佐藤和道

前は西海岸をめぐるだったので、今回は東海岸へ。新幹線の通る西側に比べてアクセスはよくないが、見どころは多い。

(2018年) 8/26 名古屋↓台北

今回は中華航空をチョイス。サイズ不問で30キロ以内なら追加料金不要(当時)。ふつうは3辺203cm以内の制限があるのでとても助かる。海外の航空会社は扱いが荒いと聞くが特に問題なし。桃園国際空港から台北市街へは、開通したばかりの地下鉄(捷運)を利用。大型荷物も置いて輸送もOK。地上へ出ると台北は土砂降りの大雨。結局ほぼ毎日雨だった。

宿は迪化街に近い「We Come Hostel(北門旅客青年旅舎)」。共有スペースが広く、

朝食も無料。ありがたいことに台北に戻るまで輸送バッグを預かってくれた。

8/27 台北↓羅東 約110km

初日は宜蘭県の羅東を目指す。台湾鉄道に沿って北上した後、「暖暖」から山道へ。峠を下る途中、何か浮かんでいると思ったら、十份の天燈(ランタン)だった。願い事を書いて上げると、願いが叶うという。



迪化街で購入した木製の「環島車票」。

通じない。わざわざ奥から娘さんと呼んできて英語で注文を訊いてくれた。



裕成水果行の綜合水

3 / 31 台南→台中→台北 約50キロ

台南は朝食も有名。定番の牛肉湯（牛肉スープ）と台湾独特の碗粿（台湾風茶わん蒸し?）。竹でできた昔ながらの匙で頂く。予定ではこのまま高雄まで行くはずだったが、台中の野球場でやっていた味全ドラゴンズの展示（行ったときには閉室していた）がどうしても見たかったので、予定変更。高鉄台南駅まで行って新幹線で台中へ戻る。赤いチームカラーに中日ドラゴンズとほぼ同じロゴの味全ドラゴンズは99年に解散。その回顧展だったのだが、奇しくも今年20年ぶりに復活した。今思えば復

活記念の展示だったのかもしれない。ちょうど元阪神、林威助の引退記念展を開催中。ほかにも台湾出身の歴代有名選手のグッズが展示してあった。



郭源治のユニフォームもあった

ついでに行きに見逃した彰化の扇形庫へ。これも日本時代の遺物だが、まだ現役で使われている。最後に吉祥票（縁起の良い切符）で有名な追分駅へ。ここでは「追分駅→成功駅」（良い点数を取る・良い方向へ導くという意味になる）の切符を買うことができる。再び新幹線に乗って台北へ戻った。

初めての台湾自転車旅は想

像以上にスムーズだった。たいていの道路にはバイクレーンがあるので、大都市以外は日本より快適。右側通行もすぐに慣れる。興味を持たれた方は、ぜひチャレンジして頂きたい。



3 / 29 台中↓嘉義 約95キロ

朝7時、台中 of 観光地彩虹眷村へ。まだ早すぎて誰もいない。90歳のお爺さんが一人で描いたという極彩色の家は圧巻。出発前、星爸がお手製の維力炒醬麵（インスタントラーメン）を作ってくれた。宿泊したお客にサービスするのが恒例だそうだ。

まずは隣の彰化へ。有名なチョコレート色の大仏を見る。ここは八掛山という山上にあり、結構な急坂を登る。もう一つの目的地、扇形庫（機関車用の車庫）は午後一時開門のため見られず。阿三肉圓で、彰化名物、肉圓（バーワン）を食べる。ぶよぶよしたゼリー状の皮に肉を包んだもの。以前九份で食べた時はおいしいと思わなかったが、ここのはうまい。

西螺、斗六に寄りながら嘉義へ。宿は「ラー・ワー・ハウス」。ビル全体が宿になっていて、1階はダイニングとキッチン、屋上にランドリー。ほかに宿泊客がいないので、シングルに格上げしてくれた。

嘉義名物は、大頭魚という魚の素揚げを

煮込んだ砂鍋魚頭。量が多いから頭付きはやめておくと宿のお姉さんに忠告されたが、せつかくなので頼んでみる。が、一人では多すぎて食べきれず…。ほかに魯熟肉（豚モツを茹でたもの）や鱈魚意麵（タウナギ麵）。珍しいものが多いとはいえ、さすがにこの日は食べすぎた。



砂鍋魚頭 2〜3人前 260元

3 / 30 嘉義↓台南 約90キロ

まず山方面に行き、関子嶺温泉を目指す。ここは珍しい泥の温泉。外湯は水着必須のため内湯へ。連日の暑さで日焼け跡がくつきりと残っていた。

一旦山を下りて、今度は烏山頭水庫を目

指す。日本人技師、八田与一が作ったダムで台湾の教科書には必ず載っているらしい。八田与一の銅像を拝んで、途中で買った弁当を食べる。この日も熱中症になりそうなくらい暑かった。このあと、善化のビール工場を見学し（ビールは飲めなかったが）、台南へ。本日の宿「ライト・ホステル・タイナン」はこれまでの個人宿とは違っかなり大きい。

古都台南は食の都。まず蝦仁飯（エビ飯）、軟骨飯をはじめ。老舗のお菓子屋さんの新裕珍餅舗で馬卡龍（台湾式マカロン）を買い、日本統治時代に建てられたデパート林百貨店を見学。裕成水果行で総合水果（かき氷）を食べた。以前来たときは開店直後で座るところもない盛況ぶりだったが、夜は比較的すいていた。最後に台南名物の虱目魚（サバヒー）を買おうと思ったが、台南訛りのせいかわ、言葉がなかなか

3/27 台北↓新竹 約95キロ

2015年、台湾本島を一周する「環島一號線」が全線開通した。今回のルートも多くはこれを踏襲する。まずは金牛角（台湾クワツサン）が名物の三峽へ。お廟の前にずらりと店が並ぶ。私はこれが大好物。自転車だからいいだろうと10個入を購入。台湾最大級のダム、石門水庫を通って、客家の街北埔へ。名物の擂茶（レイチャ）を飲む。豆などを擦り入れており、黄粉のような味わい。自転車が高雄まで行くと言ったら、お店のお姉さんがすごいと言って褒めてくれた。

宿は新竹の「沙發故事旅行生活空間」。夜は有名な城隍廟夜市へ。お廟を中心に飲食



石門ダムにて

店が広がり、歴史のありそうな建物も多い。創始店だという廟口鴨香飯（アヒルご飯）へ。濃厚な味わい。甜不辣（天麩羅）を買って帰り、この日も宿でビール。

3/28 新竹↓台中 約120キロ

環島一號線に沿って海岸線へ出る。途中、環島中と思しき台湾人を何組か追い抜く。途中で海を離れて内陸方面へ。気温は30度近く、斜度もだんだんきつくなってくる。やつのことで目的地の龍騰断桥に到着。地震で倒壊した鉄道橋の遺構。思っていたより大きい。山を下って再び海側へ渡り、「台湾のウユニ塩湖」と言われる高美湿地へ。夕日が美しいのだが、この日はまだ少し早かった。

台中市外へ戻る道は、予想外のアップダウン。ヒルクライムを繰り返して、台中駅付近の「オハナトラベルスペース」に到着。ご主人の星爸はとても気さくで色々世話を焼いてくれる。

夜は臺中市洲際棒球场へ行き、前から見

たかった台湾プロ野球、中信ブラザーズ対統一ライオンズを観戦。外野席はがらがら。買っておいいた焔肉飯（角煮丼）弁当を食べて早々に退散。宿では星爸を囲んで宴会が続いていた。泊まり込みで店を手伝っていた日本人の若者、大阪から来た女子大生、ベトナムの二人組と話に花が咲いた。

台中の宿で。一番奥が筆者。



ホアンダオ

台湾環島記 ①

《西海岸編》 佐藤和道

台湾本島を一周することを環島（ホアンダオ）という。電車・バイク・自転車・徒歩など、手段は様々だが、実に多くの人が環島にチャレンジしている。

ここ十年ほど、長期の休みができる台湾を訪れている。人が優しく、ご飯もおいしいので「ハマって」しまったのだ。ロードバイクを買ったときから、環島は実現したい夢の一つだった。一周およそ1000キロ、ただ周るだけなら、一週間で足りる。でもせっかくだから自転車で行きたくないところに行つて、現地の旨いものを食べたい。またまって取れる休みは一週間が限度。そこで、3回に分けて周ることにした。

初回は2018年3月、台北から西海岸を南進し、高雄を目指す。

3/26 名古屋→台北

JAL821便で桃園国際空港へ。国際線での輸行は初めてだったが、オーストリッチのOS500という輸行バッグで問題なく到着した。

宿は寧夏夜市直近の「191ホテルニンシャー」。いわゆるドミトリで、一泊1500円ほど。ラブホっぽい内装が若干気になるが、下手なビジネスホテルよりよっぽど綺麗な。台湾は古民家やビルの一部を改装したドミトリが豊富。今回はすべて事前にネットで予約しておいた。

宿の前で自転車を組み立てていると、近所のおじさんが物珍しそうに色々話しかけてきた。輸行バッグは台北駅前の行李托運中心（荷物預り所）に預ける。一日50元。遅い昼ご飯は、四神湯（モツスープ）と肉

包（肉まん）。夜は眼下の寧夏夜市で臭豆腐や鹽水雞（鶏肉と野菜を煮たもの）を買って台湾啤酒を飲んだ。



『名古屋学院論叢』では、次の要領で原稿を募集しております。

応募資格

1. 名古屋中学校・高等学校の授業担当教員（退職者を含む）
2. 名古屋中学校・高等学校の事務職員（退職者を含む）
3. 名古屋中学校・高等学校に在籍する生徒
4. 名古屋中学校・高等学校を卒業した生徒（旧名古屋学院卒業生徒を含む）
5. 名古屋中学校・高等学校の教育理念に賛同するもので、学校長及び『論叢』編集委員が認めたもの

種類……論説、研究ノート、授業実践、翻訳、及び書評など、ジャンルを問いません。

執筆要項

1. 印字原稿と電子媒体（USB メモリーなど）をお送りください。なお、ファイルは Microsoft Word 形式で保存したものを提出してください。
2. 原稿は B5 サイズの無地の用紙を用いて、上下左右に 20mm の余白をとり、横書きで 1 ページあたり 40 字×38 行で印字してください。
3. 註は原稿の末尾にまとめてください。
4. 裏表紙に使用する欧文表題、及び執筆者の所属を原稿の文末に明記してください。

原稿の提出先・お問い合わせ

〒461-8676 愛知県名古屋市東区砂田橋二丁目 1 番 58 号

名古屋中学校・高等学校 図書館 『名古屋学院論叢』編集委員会

E-mail : nagoya-h@meigaku.ac.jp

編集後記

『名古屋学院論叢』第20号をお届けします。

編集委員長 杉原 辰雄

『論叢』第20号をお届けします。まずは、発刊予定日から大幅に遅れてしまったことについて、お詫び申し上げます。理由については説明するまでもなく、やはり昨今の社会情勢が大きく影響しています。学校を取り巻く環境も厳しく、教員にとっても有形・無形の様々な負担が確実に増えました。2020年度当初の休校時の対応や、リモート授業の環境整備など、枚挙に暇がありません。ただし、幸いなことに本校の学びが止まることはありませんでした。『論叢』第20号がそのことを象徴しています。教員の論考においては、伊藤が授業における実践報告をまとめました。伊藤の論考は三年連続での『論叢』掲載となり、その学究的な意欲の大きさに勇気づけられます。新人の金井の論考も、興味深い内容で、視点の鋭さを容易に見て取ることができます。20年度卒業生の水谷は昨年度に引き続き、アートに関する論考の発表をしてくれました。20年度高2生の城・太田の論考は、過去2年の活動に基づきながらも、まさに時代を象徴する問題を提起する力作となっています。大崎らの共同執筆になるレポートは、19年度の高1生時の活動をまとめたものです。IT技術を駆使した文化祭のクラス企画を詳細に報告したものとなっており、画期的なレポートといえます。20年度高2生の奥菌・渡邊の両名は、自らの関心領域に基づいた研究報告をしっかりとまとめています。国語科の佐藤は、今回は旅行記を寄稿してくれました。どの論考・レポートも、生徒たちに読んで欲しい内容となっています。とりわけ、今回『論叢』に掲載した生徒らの論考・レポートは、彼らの進路選択と密接な関係をもっているといえます。

この『論叢』に影響を受けて、自分たちの新しい可能性に気づいて欲しいと心から願っています。次号も、乞うご期待。

『名古屋学院論叢』第20号 2021年12月発行

発行 『名古屋学院論叢』編集委員会

〒461-8676 愛知県名古屋市東区砂田橋二丁目1番58号

名古屋中学校・高等学校 図書館

『名古屋学院論叢』編集委員会

TEL 052-721-5271 (代表)

E-mail : nagoya-h@meigaku.ac.jp

印刷 有限会社 水谷印刷所

〒488-0818 愛知県尾張旭市向町四丁目2番地1

TEL 0561-53-3455 (代表)

FAX 0561-54-2254

NAGOYA GAKUIN RONSO:

Essays From Nagoya Junior & Senior High School Students and Teaching Staff Vol.20 2020

Articles

A Guide to Preparation for a Poster Session: Research Based Learning

Kiyoshi ITO (1)

A Study on the ‘-kkari’ Adverb

Kentaro KANAI (17)

Living in a Colorful World

Shunta MIZUTANI (23)

Changes to Rules in Natural Disaster Shelters due to COVID-19: Research Based on Questionnaires of Local Governments in Aichi Prefecture

Yuichiro TACHI , Takumi OTA (26)

Reports

A Study and Report: IT Integrated Culture Festival Class Program Managed by Students

Ryoji OSAKI , Takumi OTA , Sho OZAKI , Kodai KAWAI , Haruto SUGISHITA

(34)

Liquidity Preference Theory and Financial Instability Hypothesis: Based on Keynes and Minsky

Haruki OKUZONO(44)

Joseph Hardy Neeshima and Kanzo Uchimura

Masaya WATANABE(52)

Essay

A Diary of *Huándǎo*: A Tour of Taiwan I-III

Kazumichi SATO(68)

NAGOYA GAKUIN RONSO HENSHU-IINKAI

The Editorial Committee of Essays from Nagoya Jr. & Sr. High School Students and Teaching Staff

Nagoya , JAPAN